

【様式1】

自己評価書

四日市市立 中部中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	主体的に学ぶ生徒	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p><主な方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・四日市市問題解決能力向上のための5つのプロセスの実践 ・言語活動を重視した授業づくり ・公開授業の推進 ・少人数授業、補充学習、家庭学習の充実 ・全国学調、NRT、みえスタディチェック、体力テストの分析と対策 ・保幼小中連携による学びの確認 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善に向けては、①校長の観察・助言 ②全員一回以上の授業公開 ③教育アドバイザーや特別支援Co.の訪問支援 ④ミニ研修 など、効果的にPDCAが行われている。 ・研修テーマに沿ってすべての授業で言語活動の充実を図ったり、全校でテーマスピーチに取り組んだりしたことで、文をまとめる力、話す力が向上した。 ・「書く力」と家庭学習の充実に向け、予定帳と自主学習ノートを統合した「DAILY STUDY」を作成、配布し取り組みを進めた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに主体的・対話的で深い学びの実現にむけて、研修を深める。 	
重点目標 2	個性が輝く生徒	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p><主な方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国籍生徒や特別支援学級の生徒への個別支援と進路保障 ・合理的配慮と基礎的環境整備 ・認め合い、高めあう人権教育・道徳教育・国際理解教育の実践 ・さわやかな挨拶の励行と自主性を尊重した部活動の充実 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人生徒支援委員会と校内特別支援委員会が定例化し、機能的・組織的になった。そのことにより職員間での情報の共有が進み、みんなの共通理解のもと支援を行うことができた。 ・道徳の教科化に伴い、各学年の指導計画の作成・データベース化を行った。また、学年公開授業を学期ごとに行い、チームとして授業を計画・実行でき、教育委員会指導主事からの確かな助言と今後に向けた示唆を受けた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「考え、議論する道徳」をめざし、道徳の授業を深めていく。 ・ワールドの生徒や支援が必要な生徒がより授業に参加しやすい環境づくりや合理的な配慮については、さらに研修すすめる。 	
重点目標 3	生徒と向き合える教職員	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p><主な方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問、教育相談、個人ノート等、対話を中心に据えた生徒理解の実施 ・豊かな教育環境の整備につとめる教員、事務職員、用務員の協働 ・教職員の健全な心身の維持増進に向けた総勤務時間の縮減 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の方法により得た生徒情報について、生徒指導委員会で共有し、個別に検討、SCや外部との連携など、組織的に対応できた。 ・市の部活動ガイドラインに沿った本校の活動指導方針を策定し、短時間でより効果的な指導を行うとともに、勤務時間の見直しにつながった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の課題・背景が多様で、中には学校に来られていない生徒がいるのが現実である。教育行政、医療、福祉等関係機関との連携をさらに進め、生徒理解とその手立てを模索していきたい。 ・教職員の働き方改革について、さらに意識を高めて取り組んでいく。 	

重点目標 4	チームCHUBU	3
主な方策 成果と課題	<p><主な方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営協議会（コミュニティスクール）との協働 ・地域中心のスペシャリスト授業、職場体験、福祉学習等の体験的学習の実施 ・保護者、地域、小学生を対象とした学校見学会の充実 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校見学会では多くの保護者・地域の方に参加していただき、教育活動に対して概ね高い評価をいただいた。 ・運営協議会委員と生徒のパネルディスカッションを実施し、生徒のキャリア教育につながった。 ・地域、PTAと協働しての活動は中部中の教育活動に根付いており、生き生きと活動する生徒の姿から地域もその意義を感じてくれている。 ・学校ホームページの更新頻度を高め、情報発信につとめることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの地域協力者の参画に向けて、保護者や地域のニーズを把握したうえで、内容を充実させていく必要がある。 	

2 改善方針

- ・さらに主体的・対話的で深い学びの実現にむけて、研修課題を具体的なものとし、教職員全員が共通の課題として研修を深められるように設定する。
- ・「特別の教科 道徳」については、本年度の指導内容、評価方法などを踏襲しつつ、再度見直し改善をしていく。
- ・不登校生徒については、教職員の共通理解のもと、個別の生徒の課題や背景に応じた対応を図るとともに、教育行政、医療、福祉等の各機関との連携をさらに進めていく。
- ・国際理解教育分野での小中の連携（中部中学校区内の外国人児童生徒の情報交換など）をさらに進める。
- ・コミュニティスクールの機能をさらに高め、地域の豊富な人材を積極的に教育活動に活用していく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 橋北中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	①反復や繰り返しによる基礎的基本的な学習の定着 ②少人数のよさを活かしたきめ細かい指導の工夫 ③問題解決能力の向上をめざし、主体的・対話的で深い学びによる授業づくり ④家庭学習の取り組み ⑤教師力の向上 【成果】 ・5つのプロセスについての授業研究を実施して、職員間で共通理解をもって授業づくりをすすめることができた。 ・朝学習の時間を活用し、基礎的な学習を実施することができた。 ・NRTや学調、みえスタディチェックの結果分析を行い、生徒の強みと弱みを意識した授業実践を行うことができた。 【課題】 ・習熟度別授業の実施方法についてさらに議論を進め、効果的な方法を検討する必要がある。 ・生徒自身が自ら取り組む家庭学習について、今後さらに検討する必要がある。	
重点目標 2	キャリア教育の推進	3
主な方策 成果と課題	①社会的・職業的自立に向けた4つの力の向上を意識した教育活動の推進 ②成就感や自己有用感を高める教育活動の工夫 ③学びの一体化の取り組みの推進 【成果】 ・キャリア教育に視点を当てた教育活動が効果的にはたらき、挨拶、授業規律などの規範意識、成就感や達成感、自己肯定感など、生徒自身の高まりがみられている。 ・学びの一体化で、園や小学校とつきたい力について、共通理解を図ることができた。 【課題】 ・「自分の将来の夢や希望を持っている。」と回答する生徒の割合が目標数値を下回っている。将来のモデルとなる人との出会いや自己の生き方を考える学習機会を効果的に設定しななければならない。 ・子どもたちの将来の姿を思い描いた取り組みを、学びの一体化でさらに進める必要がある。	
重点目標 3	地域とともにある学校づくり	3
主な方策 成果と課題	①地域人材を活用した教育活動の推進 ②地域に発信し、連携して生徒を育む取組 【成果】 ・地区防災組織連絡協議会と協働して、地域の方を講師とした防災学習を実施し、生徒に地域の一員としての自覚を持たせることができた。 ・職場体験の事前学習で前PTA会長に講演してもらったり、英語の発展学習として飾り巻き寿司づくりの講師として学校づくり協力者会議の委員に来てもらったりと、地域人材を活用した学習を実施することができた。 【課題】 ・地域人材の発掘をさらに進める。今後、コミュニティスクールとの協働に努めて地域人材の活用を推進する必要がある。	

2 改善方針

○学校づくり協力者会議の委員からも今年度の本校の取り組みについては評価をいただいているので、次年度も3つの重点目標を継続して取り組む。

○本校で研修を重ねた「問題解決能力向上をめざした5つのプロセス」に基づいた授業づくりの成果をもとに、習熟度別授業や少人数授業に取り組み、基礎学力の定着及び向上を図る。

○ゲストティーチャーを招いて生き方を学んだり、本物の芸術に触れたり、様々な分野の講演を聞いたりして、たくさんの人と出会う機会を持つことを継続・発展させる。

○教職員間の連携やコミュニケーションをより大切にしながら、「チーム学校」として教育活動全般に全員で取り組む。

【様式 1】

自 己 評 価 書

四日市市立 港中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	知恵を育む（知）	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 1 基礎的・基本的な知識・技能の定着 2 思考力・判断力・表現力の育成 3 特別支援教育の推進</p> <p>【成果】■問題解決向上のための授業づくりの推進のために、教育支援課の事業を受け、指導主事の指導を繰り返し受けることで授業改善につながった。■港タイムを設定したことで全学年で歩調を合わせた補充学習が定着した。■通常学級における支援の在り方について、配慮できるようになった。外国人生徒の取り出し授業等も定着し、進路保障につながる安心感が生まれた。</p> <p>【課題】■非常勤講師が多く、本校が進めている授業改革が定着しにくい。■従来の授業スタイル等を変えられず、対話のある学び合いの授業を確立することができなかった。■支援が必要な生徒が大変多いため、小学校との積極的な連携を図っていききたい。■学力の二極化への対策。■学力の水準は高いが、失敗を恐れずチャレンジ精神旺盛な生徒の育成。</p>	
重点目標 2	心を豊かにする（徳）	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 1 認め合い高め合う仲間づくり 2 健全な心の育成 3 読書活動の推進</p> <p>【成果】 ■仲間づくりの基礎となる「みなトーク」を始めたことで思いやる気持ちが生まれた。■道徳の時間確保・研究に努め、考え議論する土台が作られた。■構成的エンカウンターやSSTを総合的な学習の時間等に取り入れることで、心のトレーニングを重ねることができた。■生徒指導で「生徒アンケート」を繰り返すことで規範意識向上、社会性を高めることにつながった。■教師による読み聞かせの定着。■Q-U調査のデータを基にした研修ができるようになった。■体育祭における縦割り活動は上級生の責任感・リーダーシップ向上につながった。■SCとの協働が功を奏した。</p> <p>【課題】■朝の読書は大変有意義で定着したが、家庭での読書につながっていない。■教育相談や生徒と関わる時間が確保しづらい。■本校の課題である自尊感情を高めるまでに至らなかった。原因と対策を分析し次年度につなげたい。</p>	
重点目標 3	健やかな体をつくる（体）	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 1 体験活動等を生かした安全教育の充実 2 健康管理を心がける生活習慣 3 健康でたくましく生きるための体力の向上</p> <p>【成果】■小中合同津波避難訓練やスケアード・ストレート教育方法による交通安全教室など新しい安全教育の取り組みが行われた。■地域の防災訓練に多くの生徒が参加し、積極的な動きを見せた。■体育の授業の質の向上、新体力テストの実施方法の改善等により効果が表れた。■保健委員会主導による啓発運動が自治活動にもつながりよかった。■学校保健委員会主催で本校薬剤師による正しい薬の使い方教室が定着する等、学校三師との連携し保健管理・指導に活かすことができた。</p> <p>【課題】■以前より改善されたが、長距離走や駅伝等に対する抵抗感が強かったり、球技に対する体の使い方がわからない生徒が多い現状に中学校区としての課題がある。■睡眠と食事の大切さについての意識の向上やゲーム依存の対策。■体力向上のため小学校との連携を深めたり、効果的な部活動の在り方を考え実践する。</p>	

重点目標 4	キャリア教育の推進	3
主な方策	<p>【主な方策】</p> <p>1 基礎的・汎用的能力を構成する4つ能力の育成(つながる・みつめる・うごくいかす・めざす)</p> <p>2 将来の夢や目標と学業を結びつける教育活動の工夫</p> <p>【成果】■学校教育活動のねらいに、キャリア教育の4つの能力が示すようになったことは成果である。■キャリア教育の考え方の理解が進んだことはよかった。■</p>	
成果と課題	<p>【課題】■各教科、特別活動、総合的な学習の時間等すべての教育活動がキャリア教育(良き社会人、良き家庭人、良き地域人を育てる)であるという認識の弱さがあり、生徒への指導内容には課題が残る。■自分の夢や将来について、語れる生徒を増やしたい。</p>	

重点目標 5	“学び舎”の礎	3
主な方策	<p>【主な方策】</p> <p>1 学校組織の活性化 2 自己研さんの推進(教えのプロとしての自覚) 3 学びの一体化の推進 4 保護者・地域との協働</p> <p>【成果】■学校づくりビジョンの達成を意識する教職員が増えた。■校務分掌を意識して、担当の当事者として尽力する姿は大きな成果である。■教委の指導主事の指導を得る機会が数多くあったこと。■CSみなとの運営や役割について十分な理解ができた。■地域の行事への参加や、学校行事への保護者・地域住民も参加しやすい雰囲気を作っている。このことが学校だけでなく、地域全体で子どもたちを育てる基盤となった。■小中での対話を重ねることで、学校区全体で教育する体制づくりにつながった。</p>	
成果と課題	<p>【課題】■CSみなと運営協議会やPTA本部役員等の関係者評価や生徒・保護者評価に基づいたPDCAサイクルを確立すること。■子どもたちや授業の話より組織的な仕事(事務系)の話が多くなっていないか。</p>	

2 改善方針

<p>■キャリア教育の充実を図り、すべての教育活動がそこへ集約されること。</p> <p>■学びの一体化の有効活用を図ること。</p> <p>■教職員の構成に応じた学校運営を充実させる。30・40歳代がアイデアを出し、研鑽を積み、学校を動かしているという当事者意識を高める。50歳代は学校全体を俯瞰する意識を高め、年下の教職員の仕事内容に責任を負う意識を高める。管理職は自律し学校教育活動のすべての責任を担うこと。</p> <p>■行事を精選し、一つひとつの教育活動を深化させたい。道徳の充実を図るには、常態化した行事を削り、時間を確保する。</p> <p>■学校公開や学校通信、ホームページの更新など情報公開は頻繁に行われたが、学年による発信量の違いを改善していきたい。</p> <p>■今日的な教育課題が次々と増える中、ビルド&ビルドになって学校現場が飽和状態にならないか心配。現状の子どもたちに対応したビジョンを定め、思い切った変革が必要。</p>

【様式1】

自己評価書

四日市市立 塩浜中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	いのちを尊重する教育の創造	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【道徳・人権教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何度も話し合い、確認しながら各学年において計画的に進めることができた。 ・道徳、人権教育の授業を通して、生徒の考えていることや人権意識を知ることができた。 ・道徳の教科化をふまえて、授業日数の確保や年間計画に沿った指導など教員の意識は高まっているが、自分たちの目指すものができなかつたという思いを強く持ったため、来年度の課題となった。 <p>【将来を見据えたキャリア教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーを招いて命の授業を行ったり、企業見学、職場体験やその準備の取り組みにおいて将来を見据えたキャリア教育を行うことができた。 ・職場体験では、地域に密着し、自分の将来や周りの仕事、今後の中学生生活について考えることができた。 <p>【性教育、食育、健康教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会が中心になり、健康集会を行い、健康に関する学習に取り組んだ。 ・1年生から様子を見てみると、走ることを通して、生徒の体力、運動能力が3年間を通じて向上している。また、昼休み時に体育館を開放するなど、運動の習慣化を図ることができた。 <p>【豊かな人間性の醸成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業講話や人権コンサートを通して、教育活動を進めることができた。 	
重点目標 2	確かな学力の向上	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【基礎的・基本的な力の定着】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問日や補充学習日を設定し、学習の補充に努めた。 ・確かな学力の向上に向けて、数学・英語科において少人数教育を進め、全教科で四日市モデルを授業に取り組むことにより個々の生徒のコミュニケーション能力の育成を進めることができた。 ・家庭学習の定着を進めることはできた。ただ、進めていく中で、「個別の配慮」という新たな課題が出てきて、改めて全職員で足並みをそろえてのぞむ必要がでてきた。 <p>【授業の工夫・改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四日市モデルを指導案に位置づけ、授業研究を行うことができた。また、生徒も活動に対して積極的に取り組むことができている。ただ、これを学力にどうつなげていくかが、今後の課題である。 ・生徒が気づきや理解を深める場面を明確に設定した授業を確立していきたい。 <p>【コミュニケーション能力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々で考えをまとめ、グループで話し合う場面を設定し、伝えあい聴き合う場を設定した。 	

重点目標 3	地域・家庭との連携した学校	4
主な方策 成果と課題	<p>【学校自己評価・学校関係者評価の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回学校評価アンケートを実施し、検討・改善を図った。また、学校づくり協力者会議を開き、より良い学校について模索した。 <p>【情報の発信・受信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ、学校の様子をHPや通信で発信した。しかし、保護者に伝わり切れていない部分があるので、発信の方法についても再度検討する必要がある。 <p>【地域との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏の除草作業・防災教育・人権コンサートなどを通して、地域との交流・連携を進めることができた。 ・学校行事に対して、地域・保護者の参加が多く、必要に応じた協力も得られている。 	

重点目標 4	特別支援教育の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>【校内支援体制の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育推進委員会を定期的に行った。また、教員間で情報を共有し、個々の生徒の特性を把握することができた。 <p>【個に応じた教育の実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常学級に在籍する生徒を含め、合理的配慮を踏まえた教育活動を行うことができた。 	

重点目標 5	教師力の向上・「保こ小中」の学びの一体化	4
主な方策 成果と課題	<p>【校内研修の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用し、よりたくさんの生徒にわかりやすい授業を展開している。 ・学びの一体化の授業研や四日市モデルの提案授業などを通して、助言者の方や参観していただいた先生から、参考になる意見をいただき、それを実践することができた。 <p>【保こ小中の連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一小一中、少人数という中で、一人ひとりの生徒を把握する、園児・児童・生徒の交流といったものはよくできていた。それを9年間・12年間というつながりにしていくことが今後の課題である。 	

2 改善方針

- ・教員一人ひとりが「学校づくりビジョン」のことをさらに意識して教育活動を行っていくためにも、職員室の数か所に掲示、または拡大印刷して玄関に掲示をする。
- ・小規模校の特性を生かし、教育課程編成や生徒指導等において各教員の連携をさらに密にしていく。
- ・生徒数のさらなる減少に向けて、学校行事等において少ない生徒での効果的な運営を進めていく。
- ・地域・家庭・学校がさらに連携して、生徒のために教育を進めていくためにも、学校の様子を細めにわかりやすい形で伝えていく。

自己評価書

四日市市立 山手中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	学力の向上と指導の充実（知）	3
主な方策 成果と課題	<p>○主な方策と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア教育の視点を取り入れた」教育活動を軸として、「生徒同士が関わり合い、学び合いのある授業の創造」や「授業づくり、授業改善」に取り組んだ。 ・特色のある教育活動になるよう、総合的な学習の時間（3W）や「1年防災教室・福祉体験教室・ネットモラル教室」「2年地区防災訓練・安全安心教室」「3年若生会との交流」など多くの地域の方に学校に来ていただき、生徒に直接指導する機会も多く取り入れた。また、地域の新聞店の協力のもと、各クラスに社会の動きに関心を持ってもらうために新聞を配付した。 <p>このような取り組みを行ってきたことにより、「特色ある教育課程の編成」の保護者の評価は、3.3、生徒からの評価は3.5という高い評価を得られた。今後もさらに内容を深め充実させたいと考える。また読書活動として「朝の読書」を実施している。生徒からは、興味が深まったなど前向きな評価を得ている。今後も司書と連携しつつ図書室の充実を図るとともに、読書活動の充実に努めていきたいと考える。</p> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わかる授業」や「適切な評価」では、教師・生徒の評価は3.4と高いことから日常の学習活動のとりくみの成果が表れていると考えられるが、保護者の評価は教師・生徒に比べそれぞれ約0.3ポイント下回っている。保護者から寄せられた意見から、まだまだ改善の余地があることを認識した。今後も、わかる授業をめざし、「教職員一人一人が研鑽を深め、工夫・改善すること」を全教職員で確認した。 ・家庭学習の充実がなかなか深まらない。今後も家庭学習の重要性を生徒及び保護者に伝える努力が必要である。 ・クラス数が多く、ICT機器の活用が十分できる環境にないが、授業者が工夫して活用している。 	
重点目標2	心の教育の推進（徳）	3
主な方策 成果と課題	<p>○主な方策と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒指導上の問題への対応」については、生徒の評価は3.4、保護者の評価は3.1であった。生徒の評価は昨年度より0.2ポイント増となり、生徒に寄り添う対応をしてきた成果だと考えられる。今後も「休み時間に廊下等で教職員が生徒の様子を常に見守り、生徒とのふれあいを大事にすること」「人権教育を含めた道徳教育の充実を進める事」「Q-Uや教育相談等で生徒の悩みや気になっていることを探り、生徒の内面に迫る生徒指導になるよう教職員同士の情報交換や研鑽を続けていくこと」が必要である。また保護者との連絡・相談等の連携もよりきめ細かく行っていく必要がある。 ・「充実した学校生活」については、保護者・生徒ともに3.4と高い評価を得ている。朝から校長を筆頭に、生徒とあいさつを交わしたり廊下などですれ違った時も教師、生徒共々挨拶をする雰囲気がある。あいさつから始まるコミュニケーションが上手くいっている事もこの結果につながっていると考えられる。 ・「自立した社会性の育成」は生徒3.5、CSは3.6と高い評価であった。あいさつや言葉遣い等日々の言動、キャリア教育の視点をふまえて指導してきた成果と考えられる。また、生徒指導上の問題が起きた時、できるだけ早く複数の教職員が対応し、事態の把握に努めたこと、個人情報に配慮しながら、全校生徒に正しい情報を発信し、どのように行動したら良いのか等の規範意識の向上を目指している。このような取り組みも高い評価につながっていると考えられる。 ・「部活動の充実」に関しては、昨年度並みの評価であった。生徒・保護者にガイドラインの理解を得られるよう情報を発信し、活動の質や量を工夫し短い時間で充実できるよう教員が努力した成果である。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーの希望者が増えてきており、適切な時期にカウンセリングができないことがある。 	

重点目標 3	健康・安全教育の徹底（体）	3
主な方策 成果と課題	<p>○主な方策と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「体力の向上・健康管理」の評価が生徒・CSとも3.5以上と高い評価となっている。これについては、例えば、基礎的な生活習慣の確立（時間を守る・清掃に取り組む）、家庭科の授業（栄養教諭と連携した食育等）、体力テストの結果に基づいた保健体育科や部活動の指導が生徒に伝わっている成果だと考えられる。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校施設・設備の環境整備、有効活用」の評価は、校舎が立てられてから年数がたち老朽化が著しいためか、保護者・生徒・教師・CSとも3.0を下回っている。市に修繕・設備要望をしているが、整備や修繕に日々対応しているのが現実である。 ・交通安全の面については、幸いなことに大きな事故はないが、自転車の通学生徒と車の接触等事故は毎年数件起きている。また地域からは、登下校時のマナーについて指摘を頂くこともあった。その都度、学級や地区別、全校集会を通して、生徒たちに交通ルールやマナーについて、より深く考える指導を行うとともに、阿倉川交番や四日市北警察署との連携を進めている。 ・本校では携帯電話やスマートフォンの所持率が学年が上がるにつれ所持率が上がり、ネット依存の可能性のある生徒もいる。外部講師を招きネットの使い方や危険についての講演を行ったり、授業でもネットの使い方や注意点についての指導を継続したりしているものの、SNSに関するトラブルは後を絶たない。またPTA家庭教育講座での啓発を今後も継続的に行っていく必要がある。 	

重点目標 4	地域とともにある学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>○主な方策と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保護者や地域の人たちとの連携」の項目が教員・生徒・保護者が3.2以上という評価でありCSは4.0の高評価であった。これもひとえに、学校が地域に向けて情報発信や地域の一員としての活動（全学年：クリーン大作戦や3年：若生会との交流、2年：職場体験学習）、郷土を知る活動（1年：地域学習）やPTA活動の親子除草作業や大縄跳び大会等の成果だと考えられる。このような活動が行える事も本校の強みの一つである。 ・「学校からの情報発信」は昨年度と同様高い評価であった。今後もより多くの情報を保護者・地域にむけて発信していくように努力していく。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAや地域との協働の活動は多く、本校の教育活動に果たしてきた役割は非常に大きい。しかし、保護者・教職員の負担という面を考えると、それぞれの「活動の成果と検証」「見直し」をしていく時期でもある。 ・「学校からの情報発信」は、教職員の負担を考えると現状以上の更新・発信は厳しいと考えられる。 	

重点目標 5	教師の専門性と資質の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○主な方策と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導主事を招聘し、研究授業や授業づくりの研修を深めることで、日常的に「5つのプロセス」や「学び合い」等を意識した授業づくりに取り組んだ。 ・「授業公開週間」を設け、教職員が授業を見あい、互いにアドバイスを言い合う研修スタイルが出来た。 ・長期休業中は各種研修会等に参加し、自己研鑽に努めた。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手教員の指導力の育成（生徒指導面や教科指導面）を普段から行う必要がある。 ・「勤務時間の縮減」を意識しながら、質を保ちつつ、会議の精選と充実を各自・各分掌で行う必要がある。 	

2 改善方針

<p>・学校づくりビジョンに示す目標が達成できるようにする。それぞれの教育活動への取組内容の充実や精選、向上を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①組織として円滑に機能するよう情報共有を密に行う ②校内研修の更なる充実 ③人権学習を含めた道徳教育の充実 ④避難訓練・交通安全指導・不審者対応、SNSのトラブル等、危機管理意識の向上と保護者との連携 ⑤勤務時間縮減に向けた行事の精選と仕事内容の見直し <p>そのために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員同士のコミュニケーションの深まりや相談・報告・連絡を密にし、個に応じた指導を行う。 ・部活動や交通安全意識等、保護者の理解を得なければいけない項目について、通信や学校ホームページによる情報発信だけでなく、懇談や家庭訪問等でさらに保護者との距離を縮めるような取り組みを進める。 ・勤務内容や仕事内容など、勤務時間のあり方についてしっかりと考え行動に移す必要がある。
--

自己評価書

四日市市立 富洲原中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	〈学びの協働体づくり、学び合う授業づくり〉 聴き合い、学び合うかわりを大切にし、一人一人の生徒が意欲的に取り組み、響き合える授業をつくります。	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研修会を充実させ、教師の授業力の向上を図ります。 ○ 中学校区「学びの一体化」の取り組みの充実を図ります。 ○ 少人数教育、ティームティーチングを充実させ、生徒の学習意欲とともに学力の向上を図ります。 <p>・授業づくりに関して、「ねらい」「ふりかえり」の視点を持ち、「四日市モデル」のプロセスを指導案の視点を加え、研修を深めることができた。</p> <p>・今年度から教科化が実施された道徳について、評価方法を中心に研修を行うことができた。</p> <p>・チャレンジ週間（授業公開週間）を学期に1回設け、相互の授業を参観し合うことで、お互いの実践を振り返る機会とすることができた。</p> <p>・校内アンケートでは、「授業はわかりやすいか」の問いに生徒・保護者とも9割近くが満足と答えており、これまでの取り組みの成果だといえる。今後、さらに取り組みを充実させるために、小グループやコの字隊形の活用に加え、さまざまな手法について研修を深めていく。</p> <p>・「学びの一体化」では、担当者会を適宜持ち、各校園の取り組みの交流や生徒の情報共有を行うことができた。来年度に向け、年間の取り組みを見直し、さらなる改善につなげていく。</p> <p>・読書活動推進校として、あらゆる手法で読書活動を進めている。学校司書や図書館ボランティアの活用も促進している。校内では「教師や図書館司書による読み聞かせ」「ゲストティーチャーを招聘した本と音楽の会」「図書委員主催のビブリオバトル」「図書館司書と書店共催のブックバイキング」等、年間を通して本に親しむ機会を増やし、読解力を高め学力向上につながる取り組みをこれからも継続していく。</p>	
重点目標 2	〈ケアリング、仲間づくり〉 生徒と生徒、生徒と教師、教師と保護者が互いに聴き合い、気持ち理解できる柔らかな人間関係を育てます。	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全職員による教育相談、特別支援教育の充実を図ります。 ○ 温かみのある生徒指導に取り組み、問題行動の予防を図ります。 ○ 自分を大切にし、命を尊重する人権教育や道徳教育、体験的活動の充実を図ります。 ○ 生徒会活動を通して、気持ちを理解し合える人間関係を育みます。 <p>・毎朝、生徒昇降口に職員が立ち、あいさつ運動を通して、生徒の様子を確認する取り組みを行った。</p> <p>・校内アンケートでは、「心の育成」に関する調査項目に肯定的な回答をした生徒の割合が9割を超えた。ゲストティーチャーを招いての講演会などを通して、当事者や様々な立場の人の思いを知ることで、子どもたちが自分自身を振り返り、これからどうしていくべきかを考える機会をもつことができた。</p> <p>・ほっと情報で各学年の生徒情報を共有し、不登校生徒へのアプローチや初期対応も全職員が柔軟に行えるような体制になっている。</p> <p>・担任だけでなく、学年担当や部活動担当など、担当教師が生徒に寄り添って教育相談を行い、家庭と連絡を密に行っている。</p> <p>・総合的な学習の時間や道徳、学活においては、キャリア教育を絡めた取り組みを行うことで、より生徒の実情に応じたものに発展させ、教育的効果を高めていく必要がある。</p>	

重点目標 3	〈開かれた学校づくり〉 学校内外で開かれた教育活動に取り組みます。	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校の教育活動を、いつでも誰にでも公開します。 ○ 地域(人材、歴史、文化、産業等)を学習の舞台として活用します。 ○ 生徒会活動の活性化を図り、自主活動、体験的活動を支援し充実させます。 ○ 部活動を通して、人間形成を図ります。 <p>・避難訓練や炊き出し訓練、防災行事等、地域とともに防災について学ぶ機会を多く持つことができている。校内アンケートの「地域の活動に楽しく参加できているか」の問いに関しても、9割以上の生徒が満足していると答えており、充実した取り組みになっていることがわかる。</p> <p>・地域行事に積極的に参加をさせて、地域の一員として活動できる機会を設けられた。今後、さらに、地域の方々をゲストティーチャーとして招く機会を模索したい。</p> <p>・全職員協力のもと、学校行事ごとなどタイムリーなHPの更新や、通信の発行を心がけることができた。保護者アンケートの結果も昨年に引き続き満足度が高くなっている。</p> <p>・部活動ガイドラインに従って、休養日を確保し、生徒の健全な心身の成長や部活動の充実に努めることができた。</p>	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、研修会等で授業における「ねらい」と「ふりかえり」について職員同士が議論する場を設定し、「四日市モデル」の研修もさらに進めていく。 ・小グループ、コの字隊形などを今後も活用しつつ、ICT機器や教具を用いるなど、より効果的な活用方法について研究授業等で研修を深めていく。 ・道徳について、評価方法についての研修を重ね、生徒の実状に応じた、より効果的な実践を考えていく。 ・「学びの一体化」においては、担当者会を定期的に関き意見を交流することで、それぞれにとってプラスとなるような取り組みを模索していく。 ・今後も継続して教育相談を定期的に行って教師と生徒の信頼関係を厚くし、子どもたちが学校を楽しんでいると感じながら生活できるよう全職員で指導を行っていく。あわせてほっと情報を活用し、全職員で生徒情報の共有に努める。 ・総合的な学習の時間や道徳・学活はキャリア教育の視点を持って、将来の生き方につながる考え方ができるよう効果的な取り組みを考えていく。 ・今後も防災訓練や地区大うんどう会、夏祭りボランティアなど地域の行事に積極的に参加し、自尊感情を高めていったり、地域の方々にも生徒を育てていただく。 ・読書活動の推進について、図書ボランティアや保護者にもお手伝いしていただきながら、学校でも家庭でも読書をして情操教育を進めていく。
--

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	授業を大切にする学校	3
主な方策 成果と課題	<p>授業を中心とした「確かに生きる力」の基盤となる「力」の育成</p> <p>(1) 【確かな学力】</p> <p>①授業公開を軸とした「主体的・対話的で深い学び」を実現させる授業づくり ②「全国学力・学習状況調査」等の結果分析に基づいた授業改善、基礎・基本の定着 ③学習習慣の定着を意図した授業等における指導の工夫、家庭との連携</p> <p><学校自己評価アンケート（肯定的な回答）の結果></p> <p>①「授業では楽しく学べ、自分を高めることができますか。」（生徒：91.2%） ②「授業では『考える・話す・表現する』ことに意欲的に取り組み、学んでいますか。」（生徒87.6%） ③「家庭での学習に自主的かつ日常的に取り組んでいますか。」（生徒82.1%） 「お子さんは、家庭での学習に自主的かつ日常的に取り組んでいますか。」（保護者59.8%）</p> <p><成果と課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「問題解決能力の育成をめざした実践的・効果的な授業づくり（第5次）」を研修主題とし、「深い学びに向かって、主体的・対話的な学習時間を確保する」ことをポイントとして授業改善に努めた。また、道徳の公開研究会に向けて学校全体で「自己を見つめ、よりよく生きる生き方についての考えを深める」をテーマに取り組み、教育目標に迫る授業づくりに着手した。 ・「全国学力・学習状況調査」の結果は、全国と比べて高い結果となった。 ・学習習慣の定着を意図した10分間の「富中タイム」の取組を改善したが、今後は家庭との連携について検討していく必要がある。 <p>(2) 【豊かな人間性】</p> <p>①「育みたい力」を明確にした体験活動を組み込んだ授業や学校行事の実施 ②社会や他者との関わりについての意識、規範意識の向上を意図した教育活動の実施 ③自分の将来を見据え、社会へ参画し貢献するためのキャリア教育の推進</p> <p><学校自己評価アンケート（肯定的な回答）の結果></p> <p>①「授業や学校行事を通して、有意義な体験や学びがありましたか。」（生徒：92%） ②「毎日の生活の中で、心を込めてあいさつできていますか。」（生徒：92%） ③「自分の将来や地域や社会とのつながりについて考えることがありますか。」（生徒：80%）</p> <p><成果と課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事や講座等、新たな取組を学年や生徒会等で実施することができた。 ・地域等で「あいさつ」について高い評価を得る機会が増えたが、保護者の回答がやや低い結果となった。身近な人を大切にする指導を大切にしていきたい。 ・地域とつながる「四日市花火大会後の清掃活動」や「地域グランドゴルフ」に100名以上の生徒が自主的に参加した。2年生の「富田の未来を語る会」「職場体験」等以外にも、1年生では「夢・志講座」を実施し、キャリア教育の視点を大切にしながらSDGsの軸に総合的な学習の時間の学習を実施している。 <p>(3) 【健康な身体・体力】 ※学校保健委員会</p> <p>①「安全な生活」「食育」「生活リズム」「望ましい生活習慣」等の啓発 ②保健体育の授業や学校行事における、運動意欲の向上、体力の増進</p> <p><学校自己評価アンケート（肯定的な回答）></p> <p>①「望ましい食事や適切な睡眠を意識して生活できていますか。」（生徒：85.3%） ②「体力を高めることを意識して生活できていますか。」（生徒：85.3%）</p> <p><成果と課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校薬剤師による「薬の正しい使い方講座」の「病気を治すのは、治癒力・免疫力」であることから「睡眠と栄養が大切である」と理解して生活できている。 ・体力とは、生涯大切にしていきたい力と考えることができる生徒を育成し、日常生活の中で体力を高めることができるようにしていきたい。 	

重点目標 2	一人ひとりを大切に作る学校	3
主な方策 成果と課題	<p>すべての人が、心も身体も安心・安全に過ごせる学校の実現</p> <p>①自分も他者も大切に、認め合い高め合える、すべての教育活動における人権教育の実践 ②特別支援教育の理念を大切に、個に応じた生徒指導の実践 ③生徒も教職員も、安全に過ごせる環境（施設）の整備、実効性のある防災体制の整備</p> <p><学校自己評価アンケート（肯定的な回答）の結果> ①「学校は安心して過ごすことができる場所になっていますか。」（生徒：88%） ①「どんな理由があっても、いじめはいけないことだと思っていますか。」（生徒：97%） ①「まわりの人の気持ちを考えて生活できていますか。」（生徒：95%） ②「先生たちは、授業などで生徒が困らないように指導や支援を工夫していると思いますか。」（生徒：92%） ②「授業などで生徒が困らないように、指導や支援を工夫しましたか。」（教師：100%） ③「安全に気をつけて生活できていますか。」（生徒：97%）</p> <p><成果と課題> ・「Q-U調査」の結果を調査後や学校行事の前に活用し、居心地の良い学級集団づくりに向けて取組をすすめることができた。引き続き、すべての生徒が肯定的な回答になるようにしていく必要がある。 ・毎学期に教師の「UDチェック」を行い、指導や支援の工夫に努めることができた。生徒の回答と教師の回答に差があり、教師の認識を改める必要がある。 ・4月初めに避難訓練の直後に道徳の授業を行ったり、津波を想定した四日市北警察署まで避難する訓練を行ったりすることで、生徒の安全意識を高め、有事の際の具体的な動きを想定させることができた。</p>	

重点目標 3	保護者や地域と協働し高め合う学校	3
主な方策 成果と課題	<p>地域や社会に開かれた教育課程・学校の実現</p> <p>①授業公開、学校だより、学年通信、ホームページ等による、教育活動の積極的な発信 ②地域等の教育資源を活用した授業の実施、地域活動への参画</p> <p><学校自己評価アンケート（肯定的な回答）の結果> ①「学校からの通信を読んだりホームページを見たりしていますか。」（生徒：57%） 「お家の方は、学校からの通信を読んだりホームページを見たりしていますか。」（保護者：81%） 「通信やホームページを積極的に発信しましたか。」（教師：52%） ②「地域の人や保護者と協働した学習や活動に取り組むことができましたか。」（生徒：83%）</p> <p><成果と課題> ・HPについては12月初の閲覧数は昨年度の1.5倍に伸びている。しかし、生徒の閲覧数が少ない。また、すべての教職員が教育活動の発信力を高める必要がある。 ・地域と協働した活動を多く設定し、主体的に参加する生徒が増えている。 ・学校からの通信等を、きちんと読んでいない生徒が少なからずいる。</p>	

2 改善方針

<p>重点目標 1 「授業を大切に作る学校」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業が生徒たちの「主体的・対話的で深い学び」につながるよう、授業改善に継続して取り組む。 ・社会や他者とのつながりや、自分の将来につなげて「生きる力」を高められるよう指導内容や方法を見直す。 ・「確かに生きる」ために、体力が重要であることを認識させ、主体的に体力を高められるよう働きかける。 <p>重点目標 2 「一人ひとりを大切に作る学校」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題等が大きく表出している生徒だけを視点とするのではなく、様々な観点やデータから一人ひとりの生徒をしっかりと見て受け止め関わり、すべての生徒が安心・安全に過ごせる学校としていく。 <p>重点目標 3 「保護者や地域と協働し高め合う学校」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の協力や支援を受けるだけでなく、主体的に働きかけることで、生徒たちが「参画している」といった手応えを感じられる教育活動等に取り組んでいく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 笹川中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	基本的な生活習慣の確立	3
主な方策 成果と課題	<p>(主な方策)</p> <p>①基本的な生活習慣の確立 ②社会規範や集団生活のルールの育成 ③日常活動での指導の充実と非行や問題行動への適切な対応</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「笹ルール」の提示と徹底により学習規律は定着してきた。また、朝のあいさつ運動や交通安全指導も生徒会やPTAを中心とした取り組みになっており、地域住民との交流にもなっている。 ・健康集会を開催し、本年度は「ささネットルール」をつくることで、生徒がやり遂げたという充足感を持たせるとともに、自分たちのルールをしっかりと守っていく、という意識を持たせることができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者との心のつながりをさらに強化し、温かみを持った生徒指導を心がけていく必要がある。 ・校外活動を通して、生徒の態度等での批判は少ない反面、応援の言葉がけも限られている。学校内だけでなく地域への働きかけも取り入れることを考えていく必要がある。 ・本校の課題でもある不登校生徒に対しては、基本的な生活習慣の確立はもとより、学力や進路の保障を、保護者とともに、きめ細やかな対応をしていかなければならない。 	
重点目標 2	確かな学力の向上	4
主な方策 成果と課題	<p>(主な方策)</p> <p>①授業の充実、適切な評価の実施と説明 ②学力補充 ③学びの一体化の推進</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての教科でICT機器を活用した授業を行うことができた。 ・基礎学力の定着のための取り組みも着々と進み、ベーシック学習の効果を実感できるようになっている。 ・定期的なアドバイザーや外部教育関係者を活用した授業改善に向けての取り組みを行うことができた。 ・少人数授業、IT、ペア学習、グループ学習等の指導形態・学習形態を取り入れることにより、学力の向上を図ることができた。特に本年度は3年生の数学を習熟度別で行うことで、成果を上げることができた。 ・家庭学習の充実を目的とした、「Selfup Diary」(家庭学習ノート)を学校独自で作成し、生徒ひとり一人の家庭学習の状況をしっかりと把握することができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用場面と活用の仕方をさらに追及していくことが必要である。 ・家庭学習の定着を図り、個々の学力向上に繋げていく。 ・学びの一体化における乗り入れ授業の充実を図り、小中間の連携を今後も継続して深めていく。 ・学調やみえスタディの結果分析による授業方法や指導方法の改善。 	
重点目標 3	心を育てる教育の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>(主な方策)</p> <p>①計画的な道徳・人権教育の充実 ②心や命を大切にする教育の推進、不登校生徒支援の充実 ③仲間づくりの充実</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動や交流学習の場を利用し、効果的な仲間づくりを推進している。 ・本年度は道徳の授業時数確保や授業の進め方、評価方法等の研修に力を注ぎ、各教員が公開授業等も積極的に行うことで、今後に向けての手ごたえを感じる事ができた。 ・昨年度に引き続き、人権講演会はLGBTIについての内容であったが、生徒にとっても理解しやすい講演であった。 ・駅伝大会や新人戦等の行事において、全校をあげて応援できる雰囲気定着してきた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育、人権教育については、学校教育の基盤になるものにとらえ、教員一人ひとりが高い人権感覚を持って行動し、生徒や保護者とも接していかなければならない。 ・子どもたちが主体的に学習活動に取り組めるように、「仲間づくり」を日常的に仕掛けていくことが必要であり、授業の中でも学び合いを中心とした取り組みを行っていく。また、「命を大切にする教育」の充実についても継続的に取り組んでいきたい。 	

重点目標 4	教師の意識改革	3
主な方策 成果と課題	<p>(主な方策)</p> <p>①全教職員の共通理解と協働歩調の徹底 ②一人ひとりを大切にす指導 ③プロの指導者としての自覚と自己研鑽の推進</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年間あるいは、各担当等だけでなく、学校内全体で「報告・連絡・相談」による情報共有が定着してきた。 ・各教科での公開授業や学年での公開、また本年度は特に道徳の授業公開を全員が行うことで、個々の授業力向上のみならず、学校全体の意識向上につながった。 ・昨年度に比べ、総勤務時間が減少した教員が増えた。少しずつではあるものの勤務時間について考える職員が増えつつある。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験豊かなベテラン教職員の退職に伴い、本校教職員の平均年齢も若返りつつある。今後もこの傾向は続くため、今日的な教育課題に対応できる人材の計画的な育成とベテラン教職員の持つ教育指導に関するノウハウの継承等が急務である。そういった意味でも校内OJTの活性化を図りたい。 ・教職員としてのモラルやコンプライアンスについての徹底と意識の向上。 ・本年度は業務アシスタントや高速コピー機の導入が、勤務時間の縮減に大きく貢献したが、教職員の意識改革については今後も継続して取り組んでいく必要がある。 	

重点目標 5	学校・家庭・地域で育てる教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>(主な方策)</p> <p>①開かれた学校づくりの推進 ②保護者・地域との連携の強化 ③「四日市版コミュニティスクール」2年目を迎え、これまで以上に地域で育てる環境づくりを構築する。また、学校関係者評価を実施し地域からの意見を取り上げながら教育計画の検討を行う。</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四郷地区防災訓練や地域文化祭への中学生の参加が実現し、子どもたち自身が地域とのつながりを実現することができた。 ・昨年度以上に、学校だより・HP・学級だより等でリアルタイムな情報発信をすることができた。 ・地域ボランティアによる、学期ごとの絵本の読み聞かせも行事として定着しつつある。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開かれた学校づくりのための教職員の意識の変革がさらに必要である。学年・学級間、及び教科間の教師の相互補完にとどまらず、様々な機会をとらえて、保護者や地域の人々の声に耳を傾け、学校にかかわる人々の心情を理解していくこと。 ・本年度、少しは解消できたが、今後も地域から提供されるばかりの学校ではなく、学校も職員も、さらには生徒も資源の一つとして、地域に貢献していく意識を持たなければならない。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習活動に取り組める生徒を育てるために、仲間づくりや互いを尊重する心の教育の充実を図りたい。その上で道徳の授業の在り方や各教科の指導方法等、これまで以上に、校内での研修を深めていきたい。 ・次期学校づくりビジョンへの職員の意見を反映し、それぞれが学校経営に参画しているといった意識を持った上で、策定に臨みたい。また、生徒や保護者、地域にとっても、しっかりと浸透していくビジョンを目指していく。 ・四日市版コミュニティスクールも昨年度に比べ、少しずつ中学生の地域行事への参加や、地域協力者の学校への関わりも増えてきた。今後もしっかりと地域に根差した、開かれた学校であるよう、協働体制を構築していく。 ・乗り入れ授業等、「学びの一体化」における校区内の連携をさらに深めながら、中学校区の教職員全員が責任をもって校区内のすべての児童生徒への指導に当たる再確認を図る。 ・特別支援教育の更なる充実と合理的な配慮を必要とする生徒一人ひとりの、発達段階に応じたきめ細かい教育活動の充実を図る。また、関係諸機関との連携も密にしながら、生徒の教育活動に当たりたい。 ・キャリア教育の充実を図り、生徒の自己肯定感・有用感、自尊感情の高揚、生徒と教師の共感性を大切にし、自己実現を目指す取り組みを図る。 ・リアルタイムな情報発信を今後も継続していく。 ・保護者、地域との連携を強化し、勤務時間、コンプライアンス、授業力向上等、教職員の意識改革を同時に行いながら、更なる開かれた学校づくりに努めたい。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 南中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	I 学力の定着と充実	3
主な方策 成果と課題	<p>* 確かな学力の定着と読書活動の充実 * 積極的な授業改善</p> <p>○授業のはじめに本時のめあてを提示し、学習内容をはっきりさせることで、生徒が授業に取り組みやすくなった。教師自身も生徒につけさせたい力を明確にし、授業づくりが行えている。</p> <p>○少人数授業が行えており、個に応じた指導がしやすくなった。生徒の学習意欲も高まっている。授業内容や展開について今後も研究を進める必要はある。</p> <p>○朝の読書の時間や図書委員会、図書ボランティアや司書等の取組の成果により、多くの生徒がメディアセンター（図書室）を利用している。ただし、来室生徒が固定化している傾向がある。</p> <p>○南スタ（帰り学活の時間を利用した自主学習の時間）が定着してきており、提出物を出せる生徒が増えてきた。</p> <p>●全国学力・学習状況調査の結果から、学力向上に向けての取組が一層必要である。</p> <p>アンケート結果（4段階評価）</p> <p>※生徒「先生は授業をていねいに分かりやすく教えてくれ、楽しく授業を受けている」⇒3.4</p> <p>※保護者「学校は子どもたちにわかりやすい授業をするための工夫をしている」⇒3.3</p> <p>※教師「授業の工夫をし、丁寧にわかりやすい授業を行っている」⇒3.1</p> <p>※生徒「授業で学習したことは、将来の役に立つと思う」⇒3.4</p> <p>※保護者「学校は入試情報や職業について、将来を見通した進路指導に努めている」⇒3.2</p> <p>※生徒「朝の読書やメディアセンターを活用して、充実した読書活動を送っている」⇒2.9</p>	

重点目標 2	II 心を豊かにする体験活動の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>* 心を育む教育の充実 * 豊かな人間性の育成</p> <p>○道徳が教科化となり、教科書が導入され、授業のスタイルが確立されつつある。授業展開や発問の工夫、議論の深化など教材研究の必要はあるが、一定の成果を収めた。</p> <p>○人権学習や道徳の授業を通して、多様な価値観や自他を思いやる心情等を育めた。また、体育祭や文化祭等の行事を通して、達成感や帰属感等を感じさせることができた。生徒の自尊感情は高まっている。</p> <p>○職場体験学習を中心とする進路学習・キャリア教育の推進により、夢や希望を持つことにつながっている。</p> <p>●働き方改革による行事精選により体験活動は減少傾向にある。日々の生活の中で、充実感、成就感を味わわせる取り組みを進めなければならない。</p> <p>アンケート結果（4段階評価）</p> <p>※生徒「命の大切さや人権を大切にし、差別をなくすための学習が実施されている」⇒3.7</p> <p>※保護者「学校は豊かな心を持ち、命の大切さや人権を大切に育てている」⇒3.4</p> <p>※教師「豊かな心を持ち、命の大切さや人権を大切に育てる生徒を育成するために、道徳や人権教育の推進に努力している」⇒3.3</p> <p>※生徒「あなたは、将来の夢や目標を持っている」⇒3.2</p> <p>※生徒「あなたは、自分にはよいところがあると思う」⇒3.4</p> <p>※生徒「将来の進路について学習し、情報を学校から知らせてもらっている」⇒3.2</p> <p>※保護者「学校は、入試情報や職業について将来を見通した進路指導に努めている」⇒3.2</p>	

重点目標 3	Ⅲ 健康・安全教育の徹底	3
主な方策 成果と課題	<p>* 相互理解を重視した生徒指導の充実 * 安全安心な学校環境づくり</p> <p>* 基本的な生活習慣の確立</p> <p>○学校全体で、休み時間も生徒のそばに寄り添い、信頼関係の上に立つ生徒指導を心がけた。また、問題行動や生徒間トラブルの未然防止に努めた。</p> <p>○電話連絡や家庭訪問を行い、保護者との連携を密に図った。</p> <p>○生徒との教育相談を定期的に行い、生徒の内面を引き出すようにした。また、学校独自にいじめ調査を行い、早期発見、早期解決に努めた。</p> <p>●不登校生徒の保護者や関係機関と連携を図りつつ、個に応じた指導・支援を行っているが、一層の対策を進める必要がある。</p> <p>●警察官による講話など、繰り返し交通安全指導を行ってきたが、校区の道路事情もあり事故が絶えない。保護者、地域と連携しながら、今後も引き続き交通安全指導を行っていく必要がある。</p> <p>アンケート結果（４段階評価）</p> <p>※生徒「先生は、いじめや暴力などの問題にきちんと対応してくれる」⇒3.5</p> <p>※保護者「学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」⇒3.3</p> <p>※教師「いじめ・差別を見逃がさない仲間づくりに努めている」⇒3.6</p> <p>※生徒「先生は生徒とのふれあいを大切にし、親身になって接してくれる」⇒3.5</p> <p>※保護者「学校は、子どもとのふれあいを大切にし、子どもが明るく楽しい学校生活を送れるようにしている」⇒3.5</p> <p>※教師「生徒とのふれあいを大切にし、生徒の心に寄り添い、生徒が安心して、明るく楽しい学校生活を送れるように努力している」⇒3.5</p> <p>※生徒「部活動に積極的に意欲的に参加し、目標を持って活動している」⇒3.5</p>	

重点目標 4	Ⅳ 学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>* 教職員の資質向上と働き方改革</p> <p>○研修委員会や学年会を中心に、授業づくり、人権教育、道徳の授業の進め方などを話し合い、共通理解のもと同じ歩調で進められた。</p> <p>○学びの一体化（保幼小中の連携）の推進により、年齢に応じた同じ方向性での指導・支援ができており、落ち着いた学校の雰囲気につながっている。</p> <p>●教師相互授業参観期間を設け、授業力向上に向けて研修を進めているが、教科部会の定期的な開催など、研修の推進が必要である。</p> <p>●学校業務の精選、業務アシスタントの配置、勤務時間外の電話対応など、教職員の働き方改革は進んではいるが、まだまだ超過勤務時間は長く、更なる業務改善、精選が必要である。</p> <p>アンケート結果（４段階評価）</p> <p>※教師「教職員としての資質向上できるよう、積極的に研修に取り組んでいる」⇒3.1</p> <p>※生徒「学校へは、毎日楽しく来ている」⇒3.4</p>	

【様式1】

自己評価書

四日市市立 西陵中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着 ①基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得 ②言語活動の充実と学び合いを大切に授業づくりの推進 ③家庭学習に地道に取り組む姿勢の育成	3
主な方策 成果と課題	学習規律の確立を徹底させることにより学力の定着に向けて取り組み、わかる授業、ICT機器の積極的活用、補充学習、家庭学習の充実、少人数授業（TT含む）による指導、課題解決学習の充実、言語活動の充実、共に学びあえる学級集団づくり、学び合いの授業づくり、個に応じた指導を具体的方策として取り組んだ。 その結果、本年度の学校アンケートの結果では、「わかる授業」に関する項目では、9割以上の生徒から肯定的な回答を得た。校内研修の充実を図り、教師全員が、生徒がわかる授業づくりや言語活動の充実をめざした。授業の開始と終わりには学習の「めあて」と「振り返り」を明確にし、ペア学習やグループ活動など多様な学習形態を活用しながら授業を組み立てた。授業の中で、生徒が互いに関わるような場面を設定することで、相互に意見を交換したり、考えを深めたりする活動も成果を上げている要因と考えられる。学力定着に向けて、小テストや補充学習、夏季休業中の学習会、TTによる指導が、粘り強く学習する姿勢を身につけさせることに成果を上げている要因と考えられる。1・2年生で帰り学活の前に補充学習の時間を設定し、国語・数学・英語と3年生では、5教科の基礎学力の定着を狙いとした取り組みを行った。保護者との連携を深めチェックシートを活用しながら生活習慣・読書習慣等けじめのある習慣を支援するとともに家庭学習においては、家庭での学習時間を確保するため、宿題の内容やチェックの仕方等についての工夫を考えていく必要がある。	
重点目標 2	主体的に生きる力の育成 ①望ましい勤労観・職業観の育成 ②コミュニケーション能力の育成 ③自主活動の充実 ④社会性の育成	3
主な方策 成果と課題	主な具体的な方策は、「キャリア教育の充実」「追究活動、体験活動の充実」「話す聞く活動の重視」「学校行事、生徒会活動、学級活動の自主的運営」である。望ましい勤労観・職業観の育成を目指し、職業調べや職場体験学習、高校調べ等、1年生から段階的・系統的に取り組んだ。1年生でのドリームマップ作成では、自分の生き方や自分の将来を考え、生徒が実感できる有効な教育活動であった2年生の職場体験学習では、社会のルール、マナーを直接体験し、自分の生き方を考えるきっかけとなり、「社会性の育成」につながった。さらに、自然教室、修学旅行、社会見学といった体験学習では、集団で行動するときのルールやマナーを身につかせた。3学期にはキャリア教育の一環として講師を招聘した講演会及び、ようこそ先輩と題した本校卒業生を招いた講演会を実施し、より身近な生の声を聴く機会を設けることで自分のこととしてとらえる機会となっている。 「自主活動の充実」「社会性の育成」では、体育祭や文化祭等の行事において、生徒会や学級のリーダーの育成を進めながら生徒自らが主体的に取り組めるように進めた。 生徒会・学級活動等、日常のあらゆる活動において、「話す聞く活動」を重視し、「コミュニケーション能力の育成」を図るなど、キャリア教育の視点で、取組をすすめた。その結果、学校自己評価アンケートの「キャリア教育の推進」に関する項目では、生徒、保護者ともに肯定的な回答を得ている。今後、このキャリア教育の全体計画を基に、中学校区の小学校と具体的に連携して取り組んでいくことが課題である。	
重点目標 3	豊かな人間性の育成 ①豊かな心の育成 ②確かな人権意識の育成 ③文化・芸術的感性の育成	3
主な方策 成果と課題	主な具体的な方策は、「思いやりのある集団づくり」「生徒会、学年、学級活動の充実」「道徳・人権教育の推進」「文化的行事の企画」である。学校自己評価アンケートの「道徳・人権教育の充実」「仲間づくり」に関する項目では、生徒は約9割強、保護者は8割強の肯定的な回答を得た。「豊かな心の育成」のために、道徳の時間を要として、すべての領域・教育活動において道徳人権教育の充実を図っている。「確かな人権意識の確立」に向けては、班・学級を集団の柱とし、常に仲間を意識した生活を指導した。また、授業でも言語活動・コミュニケーションを意識した授業づくりに取り組み、重点目標2-②「コミュニケーション能力の育成」にもつながったと考える。また、「文化・芸術的感性の育成」では、文化祭において、プロの演奏者の鑑賞、文化部の活動、音楽科、美術科、英語科を中心とした教科指導等、事前指導、事後指導も含めて、生徒の情操面での育成に努めた。 これからも日常生活で触れることのできない文化・芸術に触れる機会を計画的に設けていくことが必要である。	

重点目標 4	自己管理能力の育成 ①安全意識の向上 ②健康管理・体力づくり ③規範意識の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>主な具体的な方策は、「安全意識の向上」「安全教育の充実」「健康管理・体力づくり」「授業規律の確立」「生徒指導の充実」である。学校自己評価アンケートの「危機管理体制」「生徒指導上の問題への対応」「教育相談」に関する項目では、生徒は9割以上、保護者は8以上の肯定的な回答を得た。</p> <p>学校が安全で安心して過ごせる場として環境整備等を進め、また、安全教育の充実を図ってはいるものの、まだまだ、生徒自身の交通ルール・自転車運転マナー向上に関して、今後も粘り強く取り組みを行っていく必要がある。</p> <p>防災に関して、1・2学期は通常の避難訓練、3学期にはJアラートを活用した緊急避難訓練を実施した。今後も、繰り返し実施することで、教師の動き、生徒の動きの検証を行い、マニュアルの改善を行っていく。</p> <p>「健康管理・体力づくり」は、保健体育科の授業、保健だより、運動部活動などを中心に進めることができた。学校自己評価アンケートの、「部活動の充実」に関する項目では、生徒は9割強、保護者は8割弱の肯定的な回答を得たが学校規模（生徒数・教員数）等で考えていくと生徒・保護者の需要に学校現場の供給が追いついていないのが現状である。「授業規律の確立」「生徒指導の充実」は、学期に1回、教育相談期間を設け、生徒の内面に迫り寄り添う取り組みを行った。また、週に1回、運営委員会、生徒指導委員会、特別支援担当者会（隔週）をそれぞれ開催し、学級や生徒の情報交換を行い、各委員会を有機的につなげ、支援が必要な生徒に対する方策の検討、問題行動に対する迅速な対応を行った。</p>	

重点目標 5	教師力の向上 ①教職員の資質・能力の向上 ②情報活用能力の向上 ③校内研修の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>主な具体的な方策は、「教師力向上研修」「分掌組織の連携と組織力向上」「ICTの活用技術の向上」「授業の質の向上」である。全教師が基礎・基本を明確にし、授業改善・工夫を行うよう努力しており、評価と指導の一体化を目指している。教師力向上研修では、個人分析をもとにした、個人目標の設定を行い、その上で、管理職からの助言や同僚との相互研鑽により、個人目標達成に向けて実践を積み重ねた。わかる授業の実現のために、話し合い活動を中心とした授業改善に向けて、校内研修を行った。職員全員の相互公開授業により、生徒の言語活動を大切に授業づくりについて、教科を越えて、同僚との相互研鑽を深められた。今年度においても、授業の「ねらい」と「振り返り」活動を明確にした授業改善に取り組めたことは、大きな成果である。</p> <p>また、職員間で日常的に行われている、自身の授業改善に関する情報交換、生徒に関する情報交換等、職場内でのOJTも、学年、教科の枠を越えて活発に行われている。</p> <p>しかしながら、授業や教師の対応に関して、厳しい意見をいただいていることも事実である。今後は、一層教職員の資質・能力の向上を目指した研修を実施し、年度途中に、教師自身や学年、各委員会の取組を学校づくりビジョンに照らし合わせるための研修を設定し、調整を図っていく必要がある。</p>	

重点目標 6	家庭地域との信頼関係の確立 ①家庭・地域との連携 ②開かれた学校づくりの推進	3
主な方策 成果と課題	<p>主な具体的な方策は、「地域の催しへの積極的参加」「年間3回の学校公開日の設定」「通信、学校ホームページ等による定期的な情報発信」「保護者との対話の重視」「学校自己評価、学校関係者評価をもとにした改善」である。学校自己評価アンケートでは、「保護者・地域との連携」に関する項目に対して、生徒・保護者ともに9割の肯定的な回答を得た。学校公開日の実施、学校行事等への保護者や地域住民の参加など、開かれた学校づくりへのさまざまな取り組みの成果であると考えられる。今後は、保護者との対話の機会を多く持つようにし、学校ホームページの更新、各種通信の発行等に多くの教員が関わることで、タイムリーな発信が行われるようにしていきたい。また、学校づくり協力者会議を年3回実施し、学校経営に対する学校関係者評価をもとに、来年度の学校づくりに向け、改善の方向を明確にすることができた。</p>	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・地域関係者・保護者・教職員への「学校づくりビジョン」「重点目標及び具体的方策」の周知とその実現をめざした実践を図る。 ・きめ細かな少人数授業やチームティーチング等を含めた多様な学習形態での授業を行い、基礎学力の定着や個に応じた指導をさらに進める。 ・わかる授業を実現し、めあてと振り返り活動を実践し、言語活動を充実させるための授業改善を進める。 ・指導と評価の一体化を目指しその方法について今後も追究し、指導の充実を図る。 ・道徳の授業と評価についての研修を引き続いてを行う。 ・教師力向上研修や公開授業などを通し、全職員の資質の向上と授業改善に一層取り組む。 ・職員の感性を磨き、生徒の心に寄り添った指導の確立をめざす。 ・学びの一体化による小学校との連携を深め、共通理解を基盤とした、特別支援教育体制、生徒指導体制の確立をめざす。 ・教職員の人権意識を磨く研修をさらに進める。 ・危機管理意識を高め、生徒の事故の未然防止を図る指導体制の確立をめざす。 ・学校だよりや学年通信の定期的な発行、学校ホームページの更新等、情報発信を積極的に行っていく。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 三滝中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	【知】 確かな学力の定着	3
1.	先生は基礎的基本的な内容をていねいに分かりやすく教えてくれる。	3
2.	授業中意欲を持ち、友だちと教え合ったり、深め合ったりして学習している。	4
3.	体験学習を取り入れた授業で学習したことが、将来の自分に役立つと考えている。	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「先生は基礎的基本的な内容をていねいに分かりやすく教えてくれる」と答えた生徒が91%と、教師全員が基礎・基本を定着させるための授業改善に努めることができた。 ・生徒が興味・関心・意欲を高め、学びあい、深め合う授業づくりを推進してきたことで「授業中意欲を持ち、友だちと教え合ったり、深め合ったりして学習している」と答えた生徒が約93%おり、概ね達成できている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「少人数指導や個別学習、チームティーチングなど、一人ひとりに合わせて分かりやすく教えてくれる」と答えた生徒が85%ではあったが、「やや不十分」「不十分」と答えた生徒が15%おり、さらに充実させる必要がある。 	
重点目標2	【徳】 豊かな人間性の育成	4
1.	学校教育目標が「人を大切にする」の実現にむけて努力している。	4
2.	学校では、興味ある授業や意欲を持って取り組める行事が行われている。	4
3.	体育大会、三滝祭（文化祭）、修学旅行などの行事に意欲的に参加している。	4
4.	道徳などを通して「自分の生き方」を見つめられるようになってきている。	3
5.	人権学習を通して、いじめや差別を許さない態度が身につけてきている。	4
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校教育目標が『人を大切にする』であることを知っていて、その実現にむけて努力している」と答えた生徒が93%おり、教師・生徒ともに学校教育目標を理解して活動できている。 ・「学校では、興味ある授業や意欲を持って取り組める行事が行われている」と答えた生徒が94%おり、生徒が意欲を持って取り組める行事や特色ある教育活動を今後も模索していきたい。 ・「道徳や総合的な学習を通して、自分の生き方(現在の姿)を見つめられるようになってきている」と答えた生徒が92%おり、人権学習による成果が実感できていると考えられる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人権学習を通して、一人ひとりを大切に、いじめや差別を許さない態度が身につけてきている」と答えた生徒は93%で意識は高いものの、周囲で起こる問題や課題に対して無関心であることも日常的にあるため、今後も指導を充実させたい。 	

重点目標 3	【体】健康・体力の向上 【安】安心・安全の向上	4
1.	学級や学年での友だち関係がうまくいき、楽しい学校生活を送れている。	4
2.	自分を含め、学校全体として、学校生活のルールが守られている。	3
3.	健康で安全な学校生活を送ることができている。	4
4.	先生やS Cとの教育相談を通して、自分の思いを伝えることができている	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学級や学年での友だち関係がうまくいき、楽しい学校生活を送れている」と答えた生徒が97%、「健康で安全な学校生活を送ることができている」と答えた生徒が96%と学校が安心できる場所と概ね答えており、学校の落ち着きを示している。 ・「先生やS Cとの教育相談を通して、自分の思いを伝えることができている」と答えた生徒は89%おり、概ね教師と生徒の対話はできていると考えられる。ただし、自分の思いを伝えられない生徒が1割近くいることに目を向けていきたい。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分を含め、学校全体として、学校生活のルールが守られている」と思うが約87%いるものの、交通安全等に関して、特に自転車の乗り方など課題が残り、今後も継続して指導していきたい。 	

重点目標 4	【開】保護者・地域・関係機関との協働・連携	4
1.	学校を公開したり、学校通信を発行したりして、連携を深めようと努めている。	4
2.	講演会や授業参観など、地域に学校を公開することが多い。	4
3.	テーマを設定し、校種や教科を越えて学びの一体化の推進に努力している。	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校を公開したり、学校通信を発行したりして、連携を深めようと努めている」と答えた保護者が93%おり、今後ともいねいに情報発信を心がけていきたい。 ・「講演会や授業参観など、地域に学校を公開することが多い」と肯定的に答えた生徒が96%と、学校に足を運んでくださる保護者の方が多く、大変ありがたい。 ・ホームページや学校通信等、情報を適切に発信してきたことで、ホームページの閲覧数も増え、概ね目標を達成できているといえる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマを設定し、校種や教科を越えて学びの一体化の推進に努力していると答えた教師は約77%という結果であった。中学校2校を含む、9校園ということもあり、学びの一体化をすすめるにいく状況であるが、継続的な学びを行っていく必要がある。 	

2 改善方針

- 落ち着いた学校生活環境の継続徹底
 - ・特別支援・不登校対策委員会を中心に各関係機関との連携を図りながら相談体制・支援体制をより充実させていく。また、クラス会議や生徒間の主体的な問題解決の取組を実践することで、自分たちの学校を自分たちで作る意識高揚につなげる。
- 学力向上の取組・教科学習の充実
 - ・生徒、保護者の肯定評価が一層高まるよう指導の充実を図り取組の発信に努める。学力向上システムMITAKIの実践の継続。効果的な個に応じた指導。教員の授業実践研修の充実や基礎学習・補充学習の効果的な活用・充実を図る。
- 人権・福祉・環境教育の充実
 - ・保護者や地域への取組の発信に力を注ぎ、より一層、全校生徒の取組として一人ひとりがより実感がわく取組となるよう改善を行う。また、さまざまな分野の方との生徒の交流体験の充実を図る。道徳の教科化に伴い、従来の三滝プランとの兼ね合いを整理し実践していく。
- 家庭や地域の信頼に応える学校づくり
 - ・定期的な通信の発行及び学校HPの更新による情報発信の強化は責務。コミュニティスクールの立ち上げにより地域行事への積極的な参加が推進された。今後も地域との連携に努め、教師・生徒の地域への参画・協働を進める。
- 学校づくりビジョン達成に向けて、教科指導、学級経営、生徒指導、進路指導等、教職員全員でポイントを確認し合い、常に意識していきたい。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 大池中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	学力の向上（知とのつながりを育てる）	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○言語活動、学び合いのある授業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び合いのある授業を取り入れるため、班やグループでの活動を多くの機会を設けることができた。各教科でペア学習や班活動に生かすことができています。 ・各教科「言語活動」の取り組みをさらに進め、学び合いが成立するような生徒同士の「対話的な学び」の場面を多く取り入れる必要がある。 <p>○基礎的、基本的な知識、技能の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」「振り返り」により、見通しを持って授業に取り組み、その後の課題設定にもつなげることができた。また、復習など繰り返し行うことで基礎学力がかなり定着してきた。 <p>○「トライやるタイム」で、学力保障</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トライやるタイムの意義を生徒や保護者に周知でき、いままでの学習内容をもう一度振り返らせることができるなど基本的な内容の学習の場となっている。 <p>○「自主学习ノート」による学習習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度で2年目となる「自主学习ノート」により、生徒が家庭学習にたいへん意欲的に取り組めた。今後、保護者への周知もすすめ、学校・家庭の協力体制をすすめていく必要がある。 <p>○特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的に支援委員会を開催しながら、特別支援学級生徒の様子がよくわかった。 ・特別支援委員会から提案された通常学級の生徒に対する「合理的配慮」が、全職員に共通理解されていなかった。 <p>○幼保・小・中の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの一体化により、入学予定児童などの情報交換がリンクされるなど効果は見られた。各委員会での検討事項などを共通理解していく必要がある。 	
重点目標2	豊かな人間性と健康な心身の育成（人とのつながりを育てる）	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○不登校の未然防止と改善の取り組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校対策委員会を定期的に開催しており、SCも参加しながら生徒の情報交換ができ、カウンセリング等につなぐ等の対策を考えることができています。 ・昨年度より、「チャレンジルームの設置」がされ、運営もしっかりとできてきた。生徒にあった支援・方策を提示しているので、生徒の表情もよくなり、保護者とのつながりもできてきた。 <p>○道徳教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修委員会を中心に、学校としてしっかりと進められ、それぞれの学年で定期的な話し合いがなされ、成長に応じた内容で道徳授業が進められている。 ・「ローテーション道徳」などの取り組みもはじまり、「道徳の授業づくり」研修も深まってきている。 ・道徳ノート「未来のステップ」を取り入れたことで、生徒が道徳授業を振り返るよい機会となった。 ・毎時間の道徳授業の指導案検討などについての工夫がなされると個人の負担軽減にもつながるのではないか。 <p>○規範意識、自己肯定感の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校としての方向性がしっかり示され、確実に規範意識や自己肯定感の向上が見られるようになってきた。また、学年通信などにより、肯定的なメッセージを多く発信することができた。 <p>○基礎体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校として、スポーツテストの分析を実施し、体育科・部活動を通じて課題となるところを伸ばすことができた。 	

重点目標 3	キャリア教育の推進（社会とつながる力を育てる）	3
主な方策 成果と課題	<p>○あいさつ、マナー意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケートでも高い評価を得た。たいへん落ち着いた環境で学習し、あいさつもしっかりできる生徒が増えてきているように感じる。 ・交通ルールを多くの生徒は守っているが、自転車通学生徒が多いということもあり、交通ルールなどの徹底に困難さを感じることも多い。 ・ここ数年「マナー講座」を開催することで、学年が上がるにつれて、マナー意識も向上してきている。 <p>○進路を切り拓く力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年さまざまな進路（キャリア教育）を意識した取り組みがなされていた。 ・進路に関する情報を「学年通信」などでタイムリーに発信できていた。 <p>○修学旅行、自然教室、職場体験学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事などで、各学年の取り組みが生かされ、集団としてのまとまりがみられた。 <p>○合唱活動の推進（学級・有志合唱）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有志合唱で歌えることは、自己肯定感の向上につながっている。また、地域での活躍の場があり、生徒も意欲的であった。 ・下級生にとっても上級生の姿に大いに学ぶことがあるように感じる。 	

重点目標 4	地域とともにある学校づくり（社会とのつながりを育てる）	3
主な方策 成果と課題	<p>○地域とつながる学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次の「御池沼沢」の取り組み（環境学習から草集め作業）により、自分の住む地域のことを知る機会となった。 ・CS委員代表者や地域ボランティアによる「地域子ども教室」を定着させることができた。 ・ESD教育を進めていくうえでも「御池沼沢」の取り組みが生徒にとっても理解しやすいのではないか。 ・竹谷川清掃や百人一首大会、あがた綱引き大会への参加など意欲的に取り組めた。 ・交通安全指導などさらに地域やPTAと連携し、教職員の負担軽減にもつなげれると良い。 <p>○保護者・PTAとの連携による教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「スマホ、携帯の使い方」「親子人権学習」などPTAとの連携した講演会が開催できた。 ・保護者の体育祭、文化祭など学校行事への参加は多いが、他の連携行事への参加率の低さが気になる。 	

2 改善方針

<p>・確かな学力の定着に向けて、トライの時間を設定しているが、取り組む意識の差が大きく、無駄な時間になっている生徒もいる。また、教え合いの時間についても同様なことが言える。（低学力生徒ほどその傾向がみられる）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度より、「自主学习ノート」の取り組みを1、2年次と実施したが、家庭学習の定着という面では、効果が見られつつある。来年度は、全学年の取り組みとしたい。 ・外部講師を招聘して、定期的に学習に対する姿勢や取り組み方法を話していただく機会をもっていく。 ・教職員の共通理解のもと特別支援教育を充実させるため、今後も通級、地域Co、スーパーバイザーなどを含め外部機関への相談機会を持ち、支援方法についての研修を進めていく必要がある。 ・昨年度より「不登校対策」として、「チャレンジルーム」を設置したが、徐々にではあるが効果が表れてきている。今後も改善しつつ有効な手立てを検討していきたい。 ・大規模校であるため、生徒・職員の数も多い。落ち着いた雰囲気の中で教育活動を行うためにも情報共有を確実にし、基本的な事を大事にしていねいに行うことを全職員が意識していきたい。 ・校区内の幼保・小との連携もさらに進め、「キャリア教育」を学びの一体化としてどのように進めるかも検討していきたい。

自己評価書

四日市市立 朝明中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	和 豊かな心の育成～人権教育や豊かな人間性を育む教育	3
主な方策 成果と課題	<p><アンケート結果> 「道徳・人権教育の充実」3.6P(生徒)、3.6P(教職員) 「生徒指導上の問題への対応」3.4P(生徒)、3.3P(教職員) 「特色ある教育課程の編制」3.5P(生徒)、3.4P(教職員)</p> <p><成果> ○校内の研修計画の重点の一つに、人権・同和教育の視点をふまえた仲間づくりを位置づけたことで、各学年計画的に人権教育・仲間づくりに取り組み、特に生徒の評価ポイントが高い。 ○キャリア教育、進路指導の一環として、社会や進路与学習の関わりについて考えさせる取組から、学習に対する姿勢が育ち、目的や目標を持って学ぶ姿がみられた。 ○各学年「総合的な学習の時間」を中心に体験活動を伴った地域理解・体験及び地域貢献学習に取り組んだことで、生徒たちに地域を愛し大切にすることを育むことができた。 ○ベル席の徹底、教室内の整理整頓、服装・頭髪等の身だしなみの指導の徹底をすることで基本的生活習慣の確立に一定の成果をあげることができた。 ○休み時間等生徒と触れ合うことを大切に、全校体制で取り組むことができた。 ○不登校生徒が増加傾向にある中で、教育相談の機会を大切に捉え、カウンセリングマインドにのっとり悩み事を抱えている生徒に寄り添い適切な対応をとることができ、関係機関につながり、部分的に登校できる生徒が増加した。 ○道徳教育については、どの学年も道徳の時間を計画的に運用できた。</p> <p><課題> ●各学年とも人権教育推進計画に基づいて人権学習に取り組んだが、教育活動全体の中で実践する教員の意識が弱い。また、生徒は差別はしてはいけないこととわかっていても、日常の言動に結びつかないという事案も見られた。 ●生徒指導について、指導方針は統一しているものの、職員が入れ替わる中で、ここ数年大きな問題行動がないため、情報の共有が遅れたり、指導方法がずれたりすることがあった。 ●生徒個々に耐える能力や困難なことに立ち向かう能力が十分育っていない。 ●朝の読書には、ほぼ全員の生徒が取り組めるものの、家庭読書の習慣が十分身についた生徒が少ない。 ●自ら進んであいさつをするなどコミュニケーション能力を学校全体として高める必要がある。</p>	
重点目標2	学 確かな学力の育成～基礎基本の定着と自主的・主体的に学ぶ姿勢を育てる教育	3
主な方策 成果と課題	<p><アンケート結果> 「わかる授業」3.4P(生徒)、3.4P(教職員) 「特色ある教育課程の編成」3.5P(生徒)、3.4P(教職員)</p> <p><成果> ○帰り学活で1・2年生は、基礎基本の反復練習を中心とした補充学習、3年生は、進路学習を実施し、学力の向上をはかった。 ○全学年による長期休業中における学習会、定期テスト時の質問日を実施した。また、長期休業中の学習については小学校とも連携できた。 ○校内研修で、「主体的」に考え、判断できる生徒の育成～個の力を高める～をテーマとして、公開授業週間を設定した。日々の授業の中で、生徒たちによる“教え合い・学び合い”が定着し、基礎・基本の定着が図られた。また、本校版「授業の型」を意識した研修が5年目となり、教員の「プロセス2」「プロセス5」を意識した授業づくりを目指し、意欲的に取り組む子どもの姿が多く見られた。 ○学びの一体化では、学校公開時の授業参観や小学校3・4・6年生を対象に乗入授業（特に英語）を行った。 ○コミュニティスクールの取組5年目となり、全学年「総合的な学習の時間」を中心に、地域理解・体験及び地域貢献学習を充実させたことで、学ぶ意義を実感する生徒が増え、自主的・主体的に学ぶ姿勢が育まれた。</p> <p><課題> ●「学び合う」授業実践、補充学習や長期休業中の学習会の取組が、生徒の学力向上に十分結びついていないかどうかの検証が不十分である。 ●「主体的」に考え、判断できる生徒の育成～個の力を高める～ための授業実践が十分でない。 ●生徒の家庭学習に取り組む時間が全国平均と比べ少ない。 ●学びの一体化では、異校種の相互参観の工夫が必要。</p>	

重点目標3	鍛 健康な心身の育成～体力向上への指導の充実と健康的な生活習慣の形成～	3
主な方策 成果と課題	<p><アンケート結果> 「充実した学校生活」3.5P(生徒)、3.3P(教職員) 「部活動の充実」3.6P(生徒)、3.3P(教職員)</p> <p><成果> ○体力面では、「体づくり」という観点で体育科を中心に、昨年度に引き続き、準備運動に「リズムエクササイズ」を取り入れたり、定期的に「持久走」を行ったりするなど、年間を通して継続的に取り組んでいる。その結果、新体力テストにおいて「瞬発力」、「筋持久力」、「俊敏性」、男子の「全身持久力」、「スピード」は、全国平均を大きく上回っており一定の成果をあげている。 ○部活動においては、部活動ガイドラインに基づいた、限られた活動時間の中、多くの生徒が熱心に取り組む、複数の部が県大会以上の大会に出場するなど成果を上げている。 ○学びの一体化の「体づくり部会」として保幼小中連携し、特に「持久力」、「柔軟性」を子どもに身に付けさせるよう取り組めた。</p> <p><課題> ●部活動を3年間継続できない生徒が増えている。</p>	

2 改善方針

<p><重点1> 「和 豊かな心の育成」</p> <p>①「人権教育」 子どもたちが普段の行動につながるよう、当事者との出会い等の体験的な学習を多く取り入れるなどして、子どもたちの生活に引き寄せて考えられるような指導を行っていききたい。</p> <p>②「道徳教育」 教科化に向けて、各学年年間計画の見直しをはかる中で、評価方法も含め、より実効性のある内容にしていく。</p> <p>③「読書活動」 各教科授業での活用を促進するなど、校内での推進はもちろん、地域や外部の力も借りてより一層充実できるようにする。</p> <p>④「安全教育」 地域関係者の協力を得たり、生徒の委員会活動ともリンクさせたりして、登校指導を行ってきたが、今後継続するとともに、関係機関と連携した交通安全教室を計画的に実施し、安全指導をより充実させる。</p> <p><重点2> 「学 確かな学力の育成」 「主体的」に考え、判断できる生徒の育成～個の力を高める～と、人権・同和教育の視点をふまえた「仲間づくり」を研修のテーマとして、日々の授業の中で、仲間づくりを基盤とした「学び合い」の研修を一層深め、一定の成果が得られた。 来年度は、一層、個の力を高めることに焦点を当て、自らが考え・判断し・表現（伝える・行動する）できる生徒個々の能力の育成を重点として研修に取り組む。</p> <p><重点3> 「鍛 健康な心身の育成」 保健体育の授業において、新体力テストを実施することで、自分の体力の現状を把握し、更に結果から得られた助言を参考に、各自の目標に向け継続的に努力を促していく。「部活動」においては、引き続き結果至上主義にならないように配慮し、精神・身体両面の総合的な人間形成を図っていききたい。 「心の健康」については、全校体制による日常の生徒との触れ合いを徹底するとともに、教育相談をはじめ生徒に寄り添う取組を継続する。またスクールカウンセラーや教育相談担当、関係機関と連携して、見通しをたてて取り組み、自分の心体状況を正しく捉える力、原因を考え自分で対処していく力等を育て、自分の心身をコントロールできるよう取組を進めていきたい。</p>
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 保々中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	『豊かな感性』の育成 ＜人を大切にし、気持ちよくあいさつする生徒を育てる＞	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員からの積極的なあいさつ（朝・帰りや教室へ入るとき） ・生徒会のあいさつ運動 ・長期休み明けの教員全員で生徒の向かい ・授業時のあいさつの徹底 ・部活動でのあいさつ指導の徹底 ・教室へ入るときにあいさつする ・人権学習 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分からあいさつができる生徒が増えた。 ・朝だけでなく、廊下などでもあいさつができるようになってきた。 ・人権学習を通して、人とのつながりを大切にしようという意識が芽生え、あいさつをする生徒が増えた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつされるまで、あいさつできない受け身の生徒がいる。 ・あいさつする人数が学年によって差がある。 ・授業開始と終わりのあいさつをきちんとできない生徒がいる。 ・あいさつの意味を理解できていない生徒がまだいる。 ・教員以外の人へのあいさつにつなげていない。地域や家の中であいさつできない生徒もいるので、地域や家庭に啓発していく。 ・自分からあいさつをしていなくても、あいさつをしていると感じている生徒がいる。 	
重点目標 2	『やり切る態度』の育成 ＜ていねいに掃除や身の回りの整理・整頓に取り組む生徒を育てる＞	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃点検の徹底 ・教室でのロッカーの使い方指導 ・部活動での清掃指導 ・掃除道具点検 ・掃除点検表の利用 ・教師による感謝の一言 ・授業プリントの配布時、名前の記入 ・整理整頓を一緒に取り組む ・教室等を歩いている時のゴミ拾い（教師） <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒は清掃にきちんと取り組んでいる。 ・教員の声掛けで前向きに取り組む生徒が増えた。 ・清掃時に掃除点検表を活用して清掃に取り組むことで、生徒たちが自主的に取り組んでいる。 ・床などに荷物が置かれていることが少なくなっている。 ・整理整頓ができにくい生徒が、声掛けをすると整理整頓ができるようになってきた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間一杯を活用してきれいにしようという意識がない生徒がいる。（自分から進んで汚れている所を見つけて清掃する意識が薄い。） ・一部、清掃に取り組めていない生徒、整理整頓が意識できない生徒がいる。（中学校を卒業時まで整理整頓等の生活習慣が身につけられていない生徒がいる。） ・清掃のやり直しが徹底できていない。 ・生徒数あたりのロッカーの使用可能範囲が限られ工夫が必要である。（ロッカーの上に整理ケースを設置する予定である。） 	
重点目標 3	『生きぬく基礎』の育成 ＜時間や期限を守り、授業を大切にする生徒を育てる＞	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベル席点検活動 ・教員のチャイム迄の教室移動 ・生活委員中心によるベル席の呼びかけ ・授業の開始と終了時間を守る ・生徒が意欲を持てる授業づくり <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベル席を守ろうと自分たちで座り、準備をしている生徒は増加してきている。 ・関心意欲の低い生徒も授業に参加できるようになってきている。 ・生活委員がベル席点検を粘り強く行い、意識が高くなっている。 ・声かけする生徒が増えてきている。 ・教員自身の授業時間を守る意識が向上し、モデルを示している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を守ることや提出物を出すことの意味を理解できていない生徒がいる。 ・自分たちで意識して時間を守る意識が薄く、声かけも一部の生徒にとどまっている。また、ベル席コンクールへの意識が低下してきている。 ・授業を大切にする意識が薄い生徒がいる。（授業に遅れてくる生徒の影響で、カギ締め当番が遅れることがある。） ・一部、提出物の期限を守れない生徒がいる。 ・教員自身も授業時間までに間に合わないことがある。 	

重点目標 4	「信頼される学校づくり」 ＜生徒の保々地区への愛着の気持ちを育てる＞	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域での活動（敬老会ボランティア、人権まちづくり講座参加）・防災訓練への参加呼びかけ ・コミュニティスクールでのボランティア活動 ・人権学習 ・道徳教材 ・郷土研究 ・地域人権活動、人権劇 ・1年生地域ウォークラリーやその後の新聞づくり <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権劇の取り組みが地域で大切であると意識し、人権プラザの活動価値が広がりつつある。 ・コミュニティスクールの取組で、地域の方にボランティアとして学校に来ていただき、生徒との触れ合いが生まれつつあり、学校がボランティアや地域の人たちの支援によって運営されていることに気づく機会となり、保々地区への愛着につながっている。 ・道徳で、今後の地域の発展を考え、地域を大切にしていこうとする意識を持つことができた。 ・ウォークラリーなどを通して、地域の知らないことを学ぶ機会が持てた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域での防災訓練への参加が少なく、参加意識を促す必要がある。 ・地域と関わる機会が少なく、地域活動の啓発を地域からもしてもらうことも必要。 ・同じ小学校からそのまま中学校に進学するので、他の地域を知る機会が少なく、保々地区の良さに気づいていない生徒がいる。 ・教員自身が地区への愛着を育てる学校活動や授業づくりの工夫がし足りない。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・指導の一貫性を持ち、生徒との関わりをより充実したものにしていく。 ・生徒同士が互いに関わりを持つとする仲間づくりの取り組みを充実していく。 ・中学校を卒業したら社会に出る意識を教員、生徒、保護者が意識し、「受け身的なものの考え方、態度」・「幼さをいつまでも引きずっている生徒」を、「どう“自分で考えて行動していける生徒”を育てるのか」を考えていける手立てを工夫する。 ・あいさつ、時間を守る、清掃を丁寧にするを、さらに教師自身が意識を高め、粘り強くこだわりを持って取り組んでいく。 ・ベル席の取り組みで生徒たちが声をかけるなど、生徒の自主性を促す取り組みを工夫、継続する。 ・生徒数減少もあるので、整理整頓はロッカーなど工夫して、生徒自身で取り組める環境づくりをする。 ・全職員で行っていく「取り組み」を常に職員が意識できるよう工夫する。（職員室の前の壁に掲示するなど） ・コミュニティスクールを活用し、保護者や地域の人々の学校でのボランティア活動を増やし、いろいろな人との関りを増やす。 ・学校の取り組みや情報を保護者や地域に伝えるために、学校・学年だよりやHP等を活用し、地域の人とともに学校活動ができる環境をつくる。 ・地区防災訓練の生徒の参加について、地域へも声かけしてもらいようをお願いする。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 常磐中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着と指導の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>約9割の生徒が「基本的な内容をわかりやすく教えてくれる」と回答している。全国学力・学習状況調査（3年生）、みえスタディチェックやNRT検査（1・2年生）においても全国の平均をやや上回り、また2・3年生においては昨年度より、上がっている。本年度も2・3年生の数学科において少人数学習、英語科においてTT（ティームティーチング）を実施し、生徒の学力、及び意欲の向上につながっていると思われる。全授業ではないが、学習支援者がつくことにより、細やかな指導になっている。また学校全体での授業規律への意識の持ち方から、生徒の落ち着いた授業への取り組みにつながっている。今後とも生徒の学習状況や学習内容に応じて授業形態を工夫し、基礎基本の定着と学力の向上につなげていきたい。</p> <p>基礎学力の向上にむけてToki10の取り組みを今年度全学年5教科で取り組むようになった。また家庭学習の習慣化のための、Tokiノートの取り組みが定着してきたが、内容等についてはまた改善していくことを考えていきたい。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>豊かな人間性の育成をめざして、道徳・人権教育を学年ごとに取り組んできている。成長段階に見合った取り組み、また3年間の系統だった取り組みになるよう、各学年また学校全体として取り組んでいる。各学年の生徒の状況に合わせてながら、3年間の見通しを持った指導になるようにしていくことが大切である。また教師自身も人間性を高めながら、指導に当たる必要性を感じる。特に今年度は教科化された道徳の各学年の状況に合わせた取り組みを考え、学校全体での授業研究会も持ち、取り組みを深めることができた。</p> <p>また朝の読書の時間にも生徒は落ち着いて取り組んでいるが、さらに生徒が読書に興味を持ち、生活が充実していくようにしていきたい。</p> <p>福祉学習、職場体験学習などの総合的な学習に対しての生徒・保護者の関心・評価も高く、今後も地域の協力を得ながら、事前指導、事後指導を含め、さらに充実した取り組みにしていきたい。特に福祉学習は今年度四日市社会福祉協議会と連携して取り組み、充実した内容となった。</p>	
重点目標 3	生徒指導・生徒理解の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>始業前に全員が着席をし、落ち着いて授業に臨むことができている。服装については朝の会や始業時に点検しているが、違反者はほとんどいない状況である。毎週木曜日生活委員会を中心に「あいさつ運動」をPTA及び常磐地区社協青少年部のあいさつ運動と共に行っている。</p> <p>生徒自身も9割以上が規律を守り、落ち着いて授業を受けているという意識を持っている。しかし、年々改善傾向にあるものの、引き続き小さい荒れの兆候を見逃さず指導していくことで、落ち着いた学校生活を継続させていきたい。すべての生徒・保護者は満足していないという現状を踏まえ、毎日のTokiノート、学期ごとの教育相談期間などを通じ、きめ細やかなコミュニケーションを図って生徒の様子を把握に努めている。また担任だけではなく、教科担当、部活動顧問など、職員間のコミュニケーションを密にし、スクールカウンセラーや各関連機関とも連携して生徒理解を心掛けている。学校になかなかむかえない生徒や、合理的配慮の必要な生徒など、多様化する生徒への細かな対応を今後も必要となってきた。</p> <p>生徒指導上の問題が発生した時は、学年全体、学校全体の教職員が問題の解決に向けて連携を図っている。普段の生活の会話や表情の変化を見逃さず、安心できる学校環境作りに向けて、今後も一層努力していきたい。</p>	

重点目標 4	教職員の指導力の向上と組織の活性化	3
主な方策 成果と課題	<p>研修テーマ「学力を定着・向上させるための授業づくり」として本年度は問題解決能力向上のための授業（四日市モデル）づくりに取り組んだ。各授業での「めあて」の提示、「ふりかえり」を行うことについて全体で確認をして取り組んでいる。また授業研究の際は、提案授業前の教科部会での熱心な検討で教科の授業の高まりは見られているが、さらに、提案授業を通してお互いの授業の向上を目指して、全体研修会の中で昨年度から「ワールドカフェ」方式を取り入れた。そのため全体研修会では、活発な意見交換ができ、各個人の授業に生かすことができている。また今年度から教科化された道徳の提案授業研修にも取り組み、授業や評価について考えることができた。</p> <p>さらに、校区全体の研修会においても「学びあい」学習の取り組みをテーマとして小中一貫した取り組みを目指している。</p>	

重点目標 5	保護者・地域・関係機関との協働による学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>人権学習、福祉学習や職業体験学習を、地域の方と連携して、毎年行っている。生徒がさらに地域と根ざした取り組みであると感じ、将来的に地域に貢献できるような取り組みになるように、地域と教職員の協働による授業をさらに進めていきたいと思う。</p> <p>また、行事や授業公開など、保護者や地域の方が期待をもって参加してもらえような取り組み（早めの発信など）を進めていきたい。</p> <p>学校通信、学年通信、ホームページなどを通じ、学校の様子、学年の状況を発信して信頼関係をさらに築いていきたいと思う。また保護者とは、問題となった時だけではなく、普段から気軽に話し合える関係づくりが必要であると考えている。個別の電話連絡、家庭訪問等によって保護者と連携しながら取り組んでいきたい。</p> <p>また学校自己評価でいただいた保護者からの意見を学校運営に生かしていきたい。</p>	

2 改善方針

<p>以前の本校の生徒指導上の課題の根底には、授業が分からない、授業がおもしろくないなどがある。そこから、遅刻・早退・怠学による欠席などの問題行動につながるものが過去に多くみられた。最近の傾向としては、不登校になっている生徒が多い状況である。生徒をいかに授業に引きつけるかが重要である。基礎学力の定着、わかりやすい授業の実践により、生徒の学習意欲を向上させることが重要であり、それが生徒指導上の課題の改善、また学校が楽しいところと思えることにつながるものと考えている。最近の本校の様子は落ち着いてきているが、それはこれまでの取り組みを大切に継続されてきているからである。今後も気を引き締めて取り組みをしていく必要がある。</p> <p>2・3年生の全ての数学の授業で行った習熟度別少人数編制による授業形態や英語科のT・Tの授業を継続することも有効と考える。さらに、教科担任だけではない支援の教師による指導も効果的である。そのために、本校では、より多くの加配教員の活用が不可欠である。</p> <p>また、家庭学習の定着化も重要である。宿題だけでなく、予習復習も大切な学習である。生徒自身が家庭学習の大切さを理解して、家庭での学習習慣が定着するように、家庭と協働してすすめていきたい。昨年度から行っている「Tokiノート」が有効に活用されるようにしていきたい。</p> <p>補充学習として毎日行っている「Toki10」については、今年度より5教科の基礎に取り組んでいる。生徒の成果を見ながら今後の方向を検討していきたい。</p> <p>生徒指導で大切な「生徒理解の充実」について、引き続き重点的な取り組みとして継続していきたい。問題行動に対しては毅然とした厳しい態度で指導を行いつつ、そうなった原因や要因を見つめ、生徒の内面に迫れる指導を行う必要がある。PTAによって採択された「緊急アピール」に基づいた指導も、保護者の理解を得ながら続けていきたいと考えている。また、落ち着いている今だからこそ、現状に安心せず、職員全員が常に危機感を持ちながら、日々の教育活動を進めていくことが大切である。</p> <p>部活動については、生徒指導上においても豊かな人間性を育成していく上でも重要な教育活動の一つであると考えている。多くの生徒が熱心に活動しており、どのクラブも日頃の練習の成果を発揮し好成績につながっている。しかし、長時間勤務の問題もあり、部活動ガイドラインに沿って、部活動のあり方や指導方針、活動計画などを検討して、有意義な教育活動としていきたい。</p>

【様式1】

自己評価書

四日市市立 西笹川中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	「毎日登校」の取組＋「あいさつ・掃除・時間」の取組＋キャリア・多文化共生教育の取組	3
主な方策 成果と課題	<p>(1) 「1年間の欠席日数10日未満」の生徒の割合を増やすことを目指して、わかる授業の工夫や生徒が活躍できる場の設定などの指導を重点的に行った。 しかし、目標とした数値には少し及ばない結果となった。生徒にとって、できるだけ学校を休まず授業に真剣に参加することは学校生活の基本であることから、来年度以降も継続的な指導が必要である。</p> <p>(2) 「あいさつ」「掃除」「時間」についての生徒アンケートにおいて、肯定的評価の割合90%以上を目指して、生徒会本部や委員会、学年会議など生徒主体の活動の充実とともに、ふれあい指導や下校指導を継続的に行った。 生徒アンケートにおける肯定的評価の割合は、それぞれ80%、87%、82%となり、目標とした数値には少し及ばない結果となった。「あいさつ」「掃除」「時間」の指導については、キャリア教育の視点から重要であり、来年度以降も指導の継続が必要である。</p> <p>(3) キャリア・多文化共生教育についての生徒アンケートにおいて、肯定的評価の割合90%以上を目指して、総合的な学習の時間における地域学習の充実や多文化共生サークルや学年、部活単位での地域活動への参加などを行った。 生徒アンケートにおける肯定的評価の割合は89%となり、目標とした数値とほぼ同じ結果となった。来年度から、西笹川中学校区の学びの一体化の目標を「笹川に学び、笹川を愛し、笹川とともに歩む子どもの育成」とすることから、保幼小中で連携してキャリア・多文化共生教育に取り組む必要がある。</p>	

重点目標2	確かな学力と社会への参画力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>(1) 確かな学力の育成 学校評価アンケートにおける生徒の肯定的評価の割合は95%となり、「本市小中学校平均」（平成27年度全国学力・学習状況調査の本市全小6中3の平均値：四日市市教育委員会『四日市市学校教育白書』による）よりかなり高い結果となった（設問：「学校の授業はわかりやすい」）。教師の肯定的評価の割合も93%と高く、外国につながる生徒を意識した授業の成果ともいえる。逆に保護者の肯定的評価の割合は昨年度より10ポイント低下しており、学力について厳しい見方の結果であるともいえる。今後は、生徒の学力状況について丁寧に保護者に説明するとともに、日常的な授業改善の取り組みを継続することが必要である。</p> <p>(2) 個に応じた指導（日本語指導・支援、特別支援教育）の充実 学校評価アンケートにおける生徒の肯定的評価の割合は93%と高い結果となった。これは外国につながる生徒や特別な支援を必要とする生徒を意識した授業や取り組みの成果ともいえる。今後も、生徒一人一人に応じた指導・支援の改善に努めることが必要である。</p> <p>(3) キャリア教育の充実 学校評価アンケートにおける生徒の肯定的評価の割合は77%となり、「本市中学校平均」（本市設問：「将来の夢や目標をもっている」、本校設問：「自分は、将来の夢や目標があり、その実現に向けて自分なりの努力をしている」）よりも数ポイント高い結果となった。今後は、学校の取組を保護者に丁寧に説明し、「将来の夢や目標、就きたい職業や今後の進路」「希望の進路の実現に向けた具体的な努力」「職場体験学習や修学旅行での企業訪問」などについて学校と家庭が連携して指導していく必要がある。</p>	

重点目標 3	豊かな心と「ともに生きる力」の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>(1) 多文化共生教育の推進 学校評価アンケートにおける生徒の肯定的評価の割合は99%と極めて高い結果となった。本校は外国につながる生徒が全校生徒の約35%を占めており、全教科・全領域において、「多文化共生」を基盤とした教育活動を展開することが使命である。この点について、今後も教員間の共通理解を図るとともに、中学校3年間を見通した体系的なカリキュラムに基づいて継続的な取り組みが必要である。保護者等に対しても、本校の具体的な取り組み、成果と課題等について丁寧な説明が必要である。</p> <p>(2) 道徳教育及び人権教育の充実 学校評価アンケートにおける生徒の肯定的評価の割合は99%となり、「本市中学校平均」よりも数ポイント高い結果となった（設問：「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」）。また、保護者の肯定的評価の割合も90%と高い。これらに対して、教師の肯定的評価の割合は昨年度より数ポイント低下して85%となった。今年度から「特別の教科道徳」が始まり、今後も道徳や人権教育について、中学校3年間を見通した計画的な指導が必要である。</p> <p>(3) 生徒会、学級活動、学校行事、部活動の充実 学校評価アンケートにおける生徒の肯定的評価の割合は91%となり、「本市中学校平均」よりも数ポイント低い結果となった（設問：「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」）。現在、どの学年の生徒も、体育祭や文化祭、修学旅行や自然教室、職場体験学習等の諸行事、部活動等において大変意欲的に取り組んでいる。その中で、生徒たちに中学生として必要な自主性、協力性、責任感、ねばり強さ、公共心などを身に付けさせる指導が重要である。</p>	

重点目標 4	健やかな心身の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>(1) 生徒指導の充実 学校評価アンケートにおける生徒の肯定的評価の割合は94%となり、「本市中学校平均」とほぼ同じ結果となった（設問：「自分は、学校のきまり（規則）を守って生活している」）。現在、生徒は大変落ち着いて学校生活を送っており、学力や学校行事等の他領域でも好結果が期待される。今後もこのよい雰囲気継続したい。</p> <p>(2) 教育相談の充実 学校評価アンケートにおける生徒の肯定的評価の割合は昨年度より数ポイント低い結果となった。1、2学期に約1か月の教育相談期間を設定して取り組んでいるが、十分な時間が確保できていない。今後も、思春期を迎えて多くの悩みや不安を抱えた生徒への丁寧な教育相談が必要である。</p> <p>(3) 心と体の健康教育の推進 学校評価アンケートにおける生徒の肯定的評価の割合は昨年度より数ポイント上昇した。本校生徒は、スマホ、ケータイの所持率やネット依存率が市内中学生よりやや高いという調査結果もある。今後もスマホ・ケータイ安全教室を継続するとともに、家庭との連携を図りながら規則正しい生活をさせる指導が重要である。</p>	

重点目標 5	地域とともにある学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>(1) 地域、保護者との連携（情報の発信と収集、地域行事への参加） 学校評価アンケートにおける生徒の肯定的評価の割合が昨年度より数ポイント低い結果となった。今後も地域とともにある学校づくりの取り組みを充実させ、「笹川地区が好き」「笹川地区に住みたい」と思う生徒を増やしていきたい。</p> <p>(2) 学校教育力の向上 職員の仕事の効率化を図ることで、生徒との関わりの中で教師のやりがいや満足度を高めるとともに、過重労働解消の取り組みを引き続き推進する必要がある。</p> <p>(3) 西笹中学校区 学びの一体化の推進 笹川小学校開校に合わせ、中学校区の学びの一体化をさらに推進する必要がある。</p>	

2 改善方針

外国につながる生徒が全校生徒の約35%を占めている状況を「強み」「チャンス」ととらえ、多文化共生教育のモデル校を目指して努力を続けることが重要である。このために、多文化共生教育を基盤としたキャリア教育を継続的に推進する必要がある。特に、「学力の定着・向上のための」JSLカリキュラムによるわかりやすい授業づくりと「地域と連携したキャリア教育」については、PDCAサイクルによって必要な改善を図りながら系統的・継続的な取り組みが重要である。

【様式 1】

自 己 評 価 書

四日市市立 三重平中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

	自立のためのキャリア教育の推進	3
重点目標 1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「わかる」「できる」授業づくりをすすめ、基礎・基本の定着をはかります 2. 自立に向けて「当たり前前」の事を「当たり前」にできる指導をします 3. 夢や志を持てる取り組みをすすめます 4. 問題解決能力の向上をめざし、主体的・対話的で深い学びによる授業づくりをすすめます 5. 働きやすい職場環境づくりをすすめ、教師力の向上をはかり、指導に活かします 	
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師全員が問題解決能力の向上を目指して、自身の授業改善に取り組んだことで「学校の授業はわかりやすい」と答えた生徒が約96%と、わかりやすい授業づくりに努めることができた。 ・「あいさつ・そうじ・時間を守ること」など、あたりまえのことがあたりまえにできていると答えた生徒が約94%おり、概ね達成できている。 ・「学力向上」の時間は役に立っているという生徒は約88%と概ねよいと思われるが、さらにポイントを絞った展開を検討する必要がある。 ・教師は、自身の働き方を見直す意識をもって、昨年度より15%程度勤務時間の削減を行った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題やステップアップノートを使って、毎日、学習しているという生徒が約87%と昨年度より6ポイント下がっており、家庭学習が不十分であることが判明した。 ・教師は、主体的・対話的な授業づくりを意識しているものの、生徒の評価は昨年度より下回っており、授業デザインや課題づくりを見直し、授業改善をすすめたい。 ・教師は、夢や志が持てるように意識してキャリア教育に取り組んでいるが、それらを実感できた生徒の割合が伸び悩んでいる。今後は取組の更なる工夫が必要である。 	

	豊かな人間性の育成	3
重点目標 2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自尊感情を高め、コミュニケーション力の向上をはかります 2. 一人一人を大切に、きめ細やかな指導をします 3. いじめや差別を許さず、互いに認め合い支えあう仲間づくりをすすめます 4. 「三重平ならではの」特色を活かした教育をすすめます 5. 心身の健康や安全に関する意識を高めます 	
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生は自分のことをわかってくれていると答えた生徒が約91%おり、教師と生徒の関係が良いことが伺える。 ・いじめや差別は絶対いけないと思うが約98%おり、学校は楽しいと答えた生徒も約84%と高い数字ではあるが、残りの生徒のことをしっかりとみていきたい。 ・「読書活動」「花壇づくり」「伝統文化に親しむ（選択総合）」にすすんで取り組んでいると答えた生徒が約85%おり、「三重平ならではの」特色を生かした教育が定着している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活を送り健康や安全に気を配っていると肯定的に答えた生徒が85%以上いるが、昨年度より数値が下がっている。今一度基本的生活習慣が定着するよう働きかけを工夫する必要がある。 ・「自分のことを大切にする」「自分が好き」の数値が低い。互いを認め合ったり達成感が得られたりする取組を通して、生徒の自己肯定感や有用感を高める活動を充実させる必要があり最重要課題といえる。 	

	地域とともにある学校づくり	3
重点目標 3	1. 学校運営協議会を中心とし、家庭・地域の学校教育への参画をすすめます 2. 地域と連携した事業に積極的に参加します 3. 積極的に情報発信し、開かれた学校づくりをすすめます 4. 保幼小の教職員と連携・協働して生徒を育成します	
主な方策 成果と課題	【成果】 ・学校は保護者や地域の要望や意見を取り入れて連携して生徒の育成に努めていると答えた保護者が約97%で、概ね達成できていると思われるが、慢心することなく常に周囲の意見・要望等に対しアンテナを高くして教育活動を行う必要がある。 ・97%以上の保護者から学校を信頼して頂いている。また、約94%の保護者に特色のある教育活動を推進していると評価を頂いている。 ・ホームページや通信等情報を適切に発信していると肯定的な保護者が約94%で、事実毎日のホームページの閲覧数が200程あり、目標を達成できているといえる。 【課題】 ・地域の行事や活動に参加していると答えた生徒が約61%と相変わらず消極的な面がある。 ・中学校2校を含む、9校園ということもあり、学びの一体化をすすめにくい状況である。校区内の共通の課題について具体的に継続的な取り組みを協働的に行っていく必要がある。	

2 改善方針

・学校づくりビジョン達成に向けて、引き続き、教科指導、学級経営、生徒指導、進路指導等、教職員全員でポイントを確認し合い、キャリア教育の視点に立った教育を意識する。

・生徒は、簡単な話題での話し合いや相談はできるが、根拠を明確にし、深く考えたり、自分なりに表現したりすることに課題がある。発問の仕方や課題づくりを工夫する等の更なる授業改善をすすめる。

・家庭学習を定着させるため、よりよいステップアップノートの使い方や宿題の出し方を模索する。

・生徒の支援をより充実させるために、家庭や関係機関等と連携したり、SC、SSWを適切に活用するなど、教員の共通理解を深め柔軟な対応ができるようにする。

・自尊感情向上のための取組でもある「平っ子タイム」のようなソーシャルスキル・トレーニングを、校区内で協働して取り組みをすすめたい。

・スマホ、ケイタイ、パソコン、ゲームの使い方など、ルールを決めていると答えた生徒や保護者は例年通り低い数字である。今まで以上に学校と家庭が連携し、基本的な生活習慣の定着とともにネット依存防止教育に取り組んでいかなければならない。

・本校が最も重要視するキャリア教育において、来年度も本年度と同様に幅広い分野でより多くのゲストティーチャーによる講座や体験教室を実施し、自尊感情を高めることや将来の自己実現に向けて、生徒全員が夢や志が持てるようにしていきたい。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 羽津中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○学びあいの充実と基礎的・基本的な知識の定着 アンケートの「教え合いや学び合いができたか」「教師はわかりやすく教えているか」という質問に対して、95%以上の生徒が「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」と回答している。これは、授業において、話し合い活動を重視したり、子どもの思考過程を重視したりするなど、わかりやすい授業づくりに取り組んできた成果だと考える。今後も、努力していきたい。</p> <p>○キャリア教育の視点を大切に学習の推進 アンケートで、教員の94%が「キャリア教育の視点を意識できた」と回答している。キャリア教育がめざす4つの力という指標があることで、授業や様々な活動において、生徒につけたい力（ねらい）がより明確になった。引き続き取り組みを推進していく。</p> <p>○家庭学習の推進 生徒のほとんどが「毎日できた」と答えており、本校独自の「生活ノート」を活用した家庭学習の習慣づくりの取り組みは、一定の成果を上げている。今後は、学習の質を向上させられるよう、実施方法等について、さらに検討を進めていく。</p>	
重点目標2	心を豊かにする羽津らしい活動の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>○生徒主体の学校行事の推進 多くの生徒が行事に関わる場面が以前に比べて増えたことから、生徒の評価・満足度が向上した。生徒主体の活動とするためには、教師側がより多くの準備を必要とする。今後は、担当教師の負担が重くなり過ぎないように、多くの教師で役割を細分化し、より生徒が積極的に取り組める行事の運営となるよう心がけていく。</p> <p>○文化・芸術活動の充実 文化・芸術活動において、質量ともに昨年度より概ね充実させることができたため、生徒・保護者からの評価は高い。学校全体の活動の中で文化・芸術活動の位置づけ、教育効果を考えながら次年度にこの結果をつなげていきたい。</p> <p>○道徳・人権学習の充実 各学年とも年間35時間の授業が実施できたため、生徒にも道徳の授業に対する意識が根付いた。今後、生徒の心により響く授業となるよう、さらに指導等を工夫していく。</p> <p>人権学習では、生徒たちはある程度理解できたと考えているようであるが、もう少し自分自身の問題として捉えられるように指導していく必要があると考える。</p>	

重点目標 3	相互信頼に基づいた生徒指導	3
主な方策 成果と課題	<p>○生徒指導の充実 学校全体で情報共有を図り、他学年や保健室利用状況なども把握することができた。迅速な対応ができているからこそ、生徒の評価が上がっていると考え。今後も取り組みを継続していきたい。</p> <p>○研修を深め効果的な教育相談の実施 生徒の評価が上がっていることから、目標はある程度達成できていると考えられる。教師の評価が下がっているのは、担任視点の評価項目になっているため、アンケート項目を教師全体の目線の文言に変更する必要があると考える。</p> <p>○不登校対策の推進 中学校に入学後に不登校となる場合もあり、小学校までとの環境の変化に戸惑ったり、困っている生徒がいると考えられる。状況等は一人一人異なることから、各担任の負担が重くなり過ぎないように、校内対策委員会やケース会議等を活用し、組織的な対応を進めていきたい。</p>	

2 改善方針

重点目標 1 確かな学力の向上について

- ・問題解決能力向上という具体的な目標を掲げて取り組んだことから、全教員が同一步調で進めることができた。今後も継続した取り組みを行っていく。
- ・キャリア教育（社会的・職業的自立のための4つの力）の視点で、生徒が自らの成長を感じ取ることができるよう取り組みを推進する。

重点目標 2 心を豊かにする羽津らしい活動の充実

- ・本校独自の生活ノート「Daily&Study」を通して、日々の家庭学習の充実を図り、生徒個々の学習状況を把握し、基礎学力の定着をめざす。
- ・羽津地区の保幼小中が連携し一堂に集う「山のコンサート」や「合唱コンクール」、「生徒会ダンス」は、生徒主体の実行委員を組織し、羽津中の伝統として受け継がれている。また、プロの演奏家や指導者を招き、本物の文化・芸術に生徒たちが触れる機会を設けている。この取り組みを継続し、さらなる発展を図っていく。
- ・学校だよりや学年通信、ホームページを活用して保護者や地域への日常的な発信を行い、保護者や地域と連携した学校づくりを継続する。
- ・道徳の授業を計画的に35時間実施することができた。本年度の取り組みから、より生徒の実態に応じた授業となるよう、来年度へ向けて各学年で検討を行い、さらに改善を図っていききたい。

重点目標 3 相互信頼に基づいた生徒指導

- ・問題行動や生徒の情報を敏速に共有し、きめ細かな生徒指導を継続する。また、現状に満足せず、生徒との信頼関係を深める取り組みを推進する。
- ・アンケートで「自分の学級に居場所がある」と答えた生徒アンケートが、97.3%と高い数値であるが、今後も、より教育相談を充実させるなど、取り組みを進め、100%をめざしていく。
- ・不登校生徒の減少に向け、不登校対策委員会やケース会議の充実を図るため、日ごろからS.C.との連携を深めるとともに、効果的な外部機関との連携や、不登校生徒へのよりよい支援方法の研修に積極的に取り組む。
- ・保幼小との連携を深め、児童生徒の情報交換をより一層密にし、個々の生徒の特性を理解した生徒指導や教育相談を実施する。

【様式 1】

自 己 評 価 書

四日市市立 西朝明中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	生きて働くための学力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業づくりに取り組み、どの生徒にとってもわかりやすい授業を目指した。すべての授業で、学習のねらいや振り返りを明示し、さらに授業全体の流れを示すことで生徒が意欲的に授業に取り組めるようにした。また、全学年の数学で習熟度別編成授業を、2・3年生の英語で少人数授業をそれぞれ実施することで学力の向上を図った。</p> <p>生徒は、どの授業に対してもまじめに取り組み学力を向上させることができた。中でも数学の習熟度別編成授業では、生徒の学習意欲を喚起し特に低学力層の学力向上につながった。また、英語の少人数授業では、個々の生徒の活動場面が増えたことで、意欲的に学習に取り組む姿が見られた。数学・英語の授業については、実施方法の課題を検討しながら、次年度につなげていきたい。</p> <p>自主学習ノートの取り組みは3年目を迎え、家庭学習の一部として定着してきたが、さらに内容面での充実を図っていく必要がある。</p>	
重点目標 2	自他を思いやる心とコミュニケーション力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>教育活動の様々な場面で、豊かな心の育成を図った。体育祭・文化祭における学級を基盤とした活動や修学旅行・自然教室等の学年行事を通して、互いを思いやり、高めあおうとする姿が見られた。</p> <p>道徳の授業では、各時間のねらいを明確にし、生徒の心に響く授業を進めることができた。また、人権学習では各学年のテーマに沿って学習を進め、差別のない学校・社会をつくらうとする態度を育てることができた。</p> <p>様々な場面で支援を必要とする生徒に対しては、校内特別教育支援推進委員会が中心となって情報共有を図り、個々の生徒に必要なきめ細やかな支援を行うことができた。</p> <p>本校の生徒は、全体として優しく思いやりのある生徒が多いが、中には自分の感情をコントロールすることが苦手で、仲間との関係をうまく築けない生徒もいる。すべての生徒が「共に生きる」仲間として、より良い集団となれるよう、あらゆる機会を活用して引き続き取り組みを進める。</p>	
重点目標 3	心身の健康の保持・増進と体力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>生徒の体力向上については、全国体力・運動能力調査(2年生)において、男女ともに全国平均を上回り、中体連大会においても多くの競技で上位入賞を果たした。生徒は、体育の授業に意欲的に取り組んでおり、授業や部活動を通して体力を向上することができた。</p> <p>一方、様々な要因で登校しづらい生徒は依然として多く、スクールカウンセラーや外部機関の協力を得ながら1日でも多く登校できるように取り組みを進めた。登校への足掛かりとなるよう一定の期間を定めて別室登校を促し、短時間の学習をすることで、少しずつ登校できるようになった生徒も少しずつ増えてきた。次年度に向けて別室登校のあり方を検討するとともに、登校しづらい生徒の状況を把握し、情報共有するための組織づくりを進め、すべての教員でこの問題に対応できるようにしたい。</p> <p>今年度も、生徒が多くの地域行事に中学生スタッフとして参加し地域の方との交流を図るとともに、運営に協力する中で地域活動に積極的にかかわることができた。</p>	

2 改善方針

1 生きて働くための学力の向上

どの生徒にとってもわかりやすい授業となるよう、引き続きユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業づくりを進め、自ら課題を発見しよりよく解決しようとする態度を育てる。また、習熟度別編成授業や少人数授業を引き続き実施し、個々の生徒の学力向上を図るとともに、学習事項や自分の考えを発表する場面を設け、表現力やプレゼンテーション能力の育成を図る。

2 自他を思いやる心とコミュニケーション力の育成

学級活動・学校行事を通して集団としての力を高めることで、自分を大切にし、他人の思いを尊重する心を育てる。また、生徒が自発的な活動の中で集団としての達成感・成就感を味わい、自尊感情を高めるとともに思いやりの心を育む。

個別の支援が必要な生徒について、教員間の情報共有を密にして、個々のニーズに応じた支援を講じる。

3 心身の健康の保持・増進と体力の向上

生徒理解に努め、生徒の気持ちに寄り添った指導・支援を行い、学校が生徒にとって安全・安心の場となるようにする。

部活動運営方針に基づき、積極的に部活動に取り組む。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 桜中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>(1) 校訓（自立・勤勉・敬愛）に基づいた方針 ①主体的・対話的な深い学びの推進（自立） ②「わかる授業」づくりと家庭学習の充実（勤勉） ③問題解決的な能力の育成（敬愛）</p> <p>(2) 具体的な方策 ①授業公開の推進 ②英数の教科少人数教育の実施（第3学年） ③学び合い学習の推進 ④教科部会の充実と自己評価活動 ⑤毎日の10分間基礎学習タイムの実施 ⑥朝の10分間読書の推進 ⑦ICT研修の実施 ⑧教科におけるジャンプの課題等の設定</p> <p>(3) 成果 ①生徒の授業評価 ※評価は4段階（最高評価4.0） ○分かる授業・・・H30年度3.4 → R1年度3.4 ○生徒の発言を大切にした授業・・・H30年度3.5 → R1年度3.5</p> <p>(4) 課題 ①主体的な学習態度の育成 全国学調結果から知識を活用する問題を苦手としている生徒が多いこと、平素の授業から受け身的な学習態度の生徒が多いことが課題として共有されている。このことから、主体的で対話的な学習の定着をめざした学習を一層推進する必要がある。</p>	

重点目標2	豊かな心と健やかな体の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>(1) 校訓（自立・勤勉・敬愛）に基づいた方針 ①将来を見据えたキャリア教育の推進（自立） ②体育・健康の指導の充実と食育の推進（勤勉） ③より良い仲間づくりによる人権教育の推進（敬愛）</p> <p>(2) 具体的な方策 ①職場体験の実施（第2学年） ②食育集会の実施 ③QU調査、いじめアンケートの実施 ④人権講演会の実施（全学年） ⑤コミュニケーション力を高めるためのSSTの推進 ⑥各学年による道徳授業公開と研修会の実施 ⑦3年間を見通した教育計画（学びのカレンダー）を策定</p> <p>(3) 成果 ①生徒・保護者の評価 ※評価は4段階（最高評価4.0） ○キャリア教育（進路関係の学習） 生徒・・・H30年度3.5 → R1年度3.5 保護者・・・H30年度3.0 → R1年度3.1 ○人権教育（いじめ差別の解消に向けた学習） 生徒・・・H30年度3.5 → R1年度3.5 保護者・・・H30年度3.1 → R1年度3.2</p> <p>(4) 課題 ①健康関係の保護者の低評価 健康関係の学習・・・R1年度評価2.9 ※全体で最も低い数値 ②計画的、啓発的な取組の実践 健康関係の学習は、3学期の実施されることが多いことから、その年度の学校生活に活かされにくい。この反省に立ち、今後は1学期からより計画的な実施を策定するとともに、家庭にもしっかりと伝わる取組の実践が必要である。</p>	

重点目標 3	信頼される学校づくり	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(1) 方針 ①きめ細かな教育相談・特別支援教育の推進 ②計画的な安全教育・防災教育の実践 ③教職員の資質の向上 ④より良い教育環境の実現</p> <p>(2) 具体的な方策 ①年3回の教育相談の実施、Q U調査の実施 ②特別支援委員会の充実 ③授業における支援の実施 ④防災教室の実施(第1学年) ⑤地域防災フェスタへの参加 ⑥さまざまな仕掛けの避難訓練の実施 ⑦交通・防犯・ネットモラル等の講演会の実施 ⑧各種研修会への参加 ⑨教育センターでの研修会への参加 ⑩ボトムアップによる職員意識の向上 ⑪月2回の定時退校日や週2回の部活動休養日の設定 ⑫ペーパーレスによる職員会議の効率化及び職員の意識改革</p> <p>(3) 成果 ①支援体制に対する生徒・保護者の評価 ※評価は4段階(最高評価4.0) ○きめ細かな相談・支援 生徒 H30年度3.5 → R1年度3.5 保護者 H30年度3.0 → R1年度3.1</p> <p>(4) 課題 ①生徒理解をするための時間の確保 学校における働き方改革ときめ細かな生徒理解を両立するためには、今後は学校教育活動全体を見直し、精選すべき活動を見出していく必要がある。</p>	

重点目標 4	家庭と地域等との連携	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(1) 方針 ①コミュニティスクールの推進 ②地域に開かれた学校の推進 ③学びの一体化の推進</p> <p>(2) 具体的な方策 ①地域行事への積極的な生徒の参加 ②学校公開日の設定と参加への呼びかけ ③地域団体との連携(安全・社協等) ④学校だよりや学年だよりの発行 ⑤ホームページの定期的な更新 ⑥中→小への乗り入れ授業の実施</p> <p>(3) 成果 ①コミュニティスクール運営委員の高評価 ※評価は4段階(最高評価4.0) ○地域に開かれた学校の推進 H30年度3.7 → R1年度3.6 ○コミュニティスクール活動の推進 . . . H30年度3.8 → R1年度3.8</p> <p>(4) 課題 ①学校の地域等と連携した活動は、充実した活動を目指すほど、その調整等は勤務時間内でやりくりすることは難しく、結果として教員の負担が多くなる。</p>	

2 改善方針

これまでの3年間の学校経営は、本校の課題の明確化に基づいた学校づくりビジョンの改訂（平成29年度）、地域理解と地域貢献をめざしたコミュニティスクールの活性化（平成30年度）、教育活動全体を通して豊かな自立性を備えた生徒の育成（令和元年度）を軸としてきた。その成果や課題について振り返ると、コミュニティスクールの活性化等の成果は見られたものの、自立性豊かな生徒の育成はまだ道半ばである。また、本校の強みが、地域の変容とともにしだいに弱まりつつあるように感じる。具体的には、安定した学力であったり不登校の少なさという強みが、この数年で強みと言える水準ではなくなってきている。

こうした現状を打開するには、「生徒が楽しく安心して主体的に学び生活できる学校」を、「授業改善・キャリア教育・人権教育の充実」により構築していかなければならないと考える。特にキャリア教育と人権教育については、計画性はもとより地域との連携が重要であり、授業改善は学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」をいかに実践できるかにかかっている。今後は、キャリア教育・人権教育・授業改善を充実させ、①学力の向上、②不登校の解消、③いじめの防止を改善方針の軸として取り組んでいく必要がある。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 内部中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	豊かな人間性と健康な心身の育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○ともに生きる力を高める仲間づくりに取り組みます。</p> <p>①コアタイムなどの教育相談、スクールカウンセラーによるカウンセリングの充実</p> <p>②Q-U調査を活用した学級づくり</p> <p>○キャリア教育の推進に努めます。</p> <p>①志講演・志授業による長期的な人生設計についての学習</p> <p>②身近な「生き方モデル」から学ぶ 「プロに聞く：企業人による講演」</p> <p>③職業観・勤労観、社会人としてのマナーを学ぶ「職業体験学習」</p> <p>④中学校3年時の進路選択を支援する「学力補充」「高校体験講座」等</p> <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「何のために学ぶのか」を考えられるようになり、近い将来（高校受験）だけでなく、その先を見据えた進路意識を持たせることができた。学校全体の学習意欲が高まってきている。 ・進路の実現に向かって、今できることを意識し取り組んでいくために、学んだことと日常生活とのつながりを見出す指導を今後も継続していく。 <p>★学校自己評価において</p> <p>「学校は、生徒一人ひとりが、楽しい学校生活を送れるように努めている。」</p> <p style="padding-left: 40px;">→ 肯定的な回答 生徒93% 保護者92%</p> <p>「学校では、将来に向けて夢や志を持つことの大切さや自らの生き方を学習している。」 → 肯定的な回答 生徒92% 保護者94%</p>	

重点目標2	確かな学力の向上	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○基礎基本の定着とわかる授業をめざします。</p> <p>①TTの効果的な活用と授業に遅れがちな生徒の支援</p> <p>②電子黒板やプロジェクタを活用した授業の実施</p> <p>③全国学力・学習状況調査やNRT（到達度検査）の分析と活用</p> <p>④放課後、長期休業中、土曜日を活用した補充学習 等</p> <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「朝の読書」によって静かに一日が始まり、落ち着いた雰囲気の中で授業が進められている。 ・学力補充の機会を昨年度より多く設定できた。利用する生徒も増加している。 ・生徒が主体的に学びあう授業をめざし、支援の視点での授業改革や問題解決能力の向上に向けて、授業研究をさらに進めていく。 <p>★学校自己評価において</p> <p>「学校は、生徒に授業をていねいに分かりやすく教えている。」</p> <p style="padding-left: 40px;">→ 肯定的な回答 生徒95% 保護者91%</p> <p>「学校は、『朝の読書』や『補充学習』等で充実した時間を過ごさせている。」</p> <p style="padding-left: 40px;">→ 肯定的な回答 生徒96% 保護者97%</p>	

重点目標3	地域とともにある学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>○学校からの情報を発信します。 ①学校便りやHPによる情報発信 ②積極的な学校公開 等</p> <p>○地域との連携交流に努めます。 ①生徒の地域行事への積極的参加体制の構築 ②地域人材によるゲストティーチャーの活用 等</p> <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPによる配信、定期的な学校便りによる発信は、日々の学校の様子をタイムリーに知らせることができ、本校のめざす教育について多くの方に知ってもらっている。 ・PTA活動として、通学路の危険箇所について調査を行った。 ・体育祭、文化祭、人権フォーラムに多くの地域の方々に来校してもらった。 ・内部川清掃、地区防災訓練、地区文化祭、あったか訪問等の地域行事に中学生が多数参加することで、地域の活性化につながっている。特に防災の面で、中学生が地域の力として期待されている。 <p>★学校自己評価 「学校の教育活動は全体的に見て満足できる状態にある。」 → 肯定的な回答 保護者96%</p> <p>★学校関係者評価 「生徒は地域行事へ参加していますか」 3.2（4段階評価） 「学校の様子は伝わっていますか（ホームページ等）」 3.3（4段階評価）</p>	

2 改善方針

1 豊かな人間性と健康な心身の育成

本校はキャリア教育に関する特色のある取組（志講演、志授業、プロに聞く、高校体験授業等）を多く行っており、本校の教育の中に定着している。さらに、子どもたちのキャリア発達を促すという視点でこれらとともに日常的に行われている教育活動を関連付けて、生徒の発達段階に応じたキャリア教育の実践を継続していく。

また、遠い将来を考えるキャリア教育から日々の生きる力を確実なものにしていくキャリア教育へのシフトをさらにすすめ、「将来のための今を考え、今を大切にする生徒」を育成する体制をより整備していく。

2 確かな学力の向上 ～基礎基本の定着とわかる授業～

落ち着いた中で意欲的に取り組む生徒が多い中で、学力不振や自己肯定感が低いことなどが原因で不登校になる生徒もいる。コアタイムなどの教育相談の体制をさらに充実するとともに、課題の提示の仕方、学習形態、授業形態、教具等の工夫など支援の視点に立った授業づくりにさらに取り組んでいく。

また、「聞聴スタ」など「聴く」ことを重視した取組と「伝える」ことを重視した取組を結び付け、生徒同士、生徒と教師の対話を重視した「つながりあう授業」づくりにも取り組んでいく。

3 地域とともにある学校づくり

来年度コミュニティスクールとして教育活動を進めていくことになり、交通安全や防犯の観点から通学路点検作業、三校二園通学路検討会議など地域・保護者と一体となった取組とともに命を大切にする安全教育をさらに進めていく。

内部川アレチウリ駆除作業、地区防災訓練、あったか訪問など地域行事への積極的に参加するなど中学生が地域とともに活動する機会を増やし、地域とのつながりを意識した活動をさらに進めていく。

学校の様子や地域での様子をHP等で積極的に地域に発信し、学校の強み・弱みを理解していただき、学校教育を側面から支援していただける方や組織を増やしていく。内部の子は内部で暮らすみんなで育てる意識の浸透を図っていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 楠中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	学力の向上・学び合い学習の実践	3
主な方策 成果と課題	<p>■ 研修委員会を中心に「授業の四か条」「基礎学習の流れ」等の作成及び「家庭学習の手引き」の内容検討を行い、授業・補充学習・家庭学習等の子どもの主体的な取組につなげることができた。さらに、生活リズムチェックシートを活用し、日々の生活面等の検証や改善に努め、学力向上の基盤である子ども理解に役立てることができた。</p> <p>■ 研修テーマと関連付け「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善をめざした。授業における「めあて」と「ふりかえり活動」の充実。ペアやグループ学習・コの字隊形の活用。基礎学習の時間に復習を行い、スモールステップでわかる喜びを味わえる工夫。教育アドバイザーの指導等も含め、教員全員が年間1回の研究授業を行い、授業内容や生徒の様子について意見を交流しあった。その結果、意見を伝え合う活動は定着しつつある。今後は、各教科の学び合いとはどのような状態をさすのかについて具体的な目標を定め、工夫を継続するよう研鑽を重ねたい。</p>	
重点目標 2	道徳および人権教育の充実・教育相談の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>■ 校内全体研修会において道徳の授業を全学年公開し職員全員で学び合った。「考える道徳」とは何か、学年で教材研究から単元や授業の構成を話し合い、教材観だけでなく、子ども主体の道徳の授業を創造できたのは大きな収穫である。評価についても研修委員会を中心に現状認識と課題を把握し、学年末に実際に問題なく評価を作成することができたことは一定の成果と言えよう。今後、「考える」「子ども主体」の授業づくりを各教科の日常の授業にも生かしながら工夫を続けていきたい。また、年間計画に基づき人権教育の学習内容をおおむね実施することができた。各学年の現在の子どもたちのようすから身近な課題に目を向けて取り組む工夫を大切にしている。カリキュラムの変更も踏まえながら3学年でつきたい力を見通し、今後も実践を行っていく。</p> <p>■ Q U の研修を活用した教育相談を今年も進めることができた。担任だけにまかせず学年集団で生徒の分析を行う意義は大きい。また日々の「やりとり帳」を利用したり、あたたかい言葉かけ等、日頃からの関係づくりも大切である。スクールカウンセラーや関係機関とともに更なる研修をめざしたい。</p>	
重点目標 3	健康教育の推進・安全教育の徹底	3
主な方策 成果と課題	<p>■ 生徒会保健委員会を中心とした「保健集会」。各学級で学習時期も考えながら生徒同士が行う「ミニ健康教室」を複数回実施。学校医からの助言をうけ養護教諭が学期ごとに全校生徒に向けての保健指導実施。歯科衛生士による歯磨き指導や学校薬剤師による薬物乱用防止教室等学校3医や関係機関との連携も図りながら計画的に健康教育を行うことで、健康に関する意識を啓発することができた。今後は個別の生活改善につなげていきたい。</p> <p>■ 本校生徒は全員徒歩通学であるが、自転車の乗り方も含めた交通安全教室、被災時の応急処置も含めた防災教室等を行うことができた。また、今年度から地区別集会を開き、地域の危険箇所や災害時にどう身を守るかについて考えさせる取り組みを行った。日頃通っている所にも危険が潜むことを確認し、日頃の安全意識の向上を呼び掛けた。今後もこれらの取り組みや避難訓練、保育園児を連れての避難訓練等も継続実施し、生徒の防災意識・危機管理能力を高めていきたい。</p>	

重点目標 4	キャリア教育の推進・家庭や地域との連携	4
主な方策 成果と課題	<p>■職業体験やようこそ先輩！（卒業生による進路ガイド）、ゲストティーチャーによるキャリア学習講演会等従来の取り組みに加え、2・3年生が行ったマナー講座やPTAとも連携した講演会等社会に出た時に身に着けるべき所作や姿勢、意識について学ぶ機会を持った。特に3年生の進路学習には大変役立ったと思われる。また、長期休業中を利用した地域の人材による補充学習教室も開設され、地域と連携してのキャリア学習も実を結んできている。</p> <p>■吉崎海岸の環境整美活動や、高齢者や園児等との異世代交流、朝のあいさつ運動、生徒の自主的なボランティア活動など、保護者・地域の皆さんが主体的に学校運営に参画し、本校の「学校づくりビジョン」実現にむけて尽力していただいている。生徒も積極的に地域にでかける風習もあり、双方向な連携を続けていきたい。昨年度より実施のコミュニティスクール運営協議会にも学校の教育活動や運営方針の状況について客観的な評価をいただき、本校に対する様々な助言をいただいている。</p>	

重点目標 5	生徒指導の充実・特別支援教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>■生徒指導委員会を週1回開催。スクールカウンセラーも入り生徒の情報交換及び課題解決に向けての対策等を協議し、学習・生活規律を中心としたきめ細かな情報共有を図っている。特に複雑で多様な課題を持つ不登校生徒に対する指導・支援については、スクールカウンセラー・民生委員・市教委等と連携を図り、生活状況やその背景等、本人（保護者）の願いや思いを受け止めながら、チームとして取り組んでいる。今後も進路保障を意識しながら継続的に取り組んでいきたい。</p> <p>■特別支援教育の充実を図るため、特別支援教育コーディネーターを中心に特別支援委員会をはじめ、生徒指導委員会や職員会議等で現状と対策を話し合い、一人ひとりの生徒の課題を共有し、その生徒や保護者のニーズにあった教育支援を組織的に行なっている。これらの取組により教職員と生徒や保護者の信頼関係が深まってきている。また、本人や保護者の困り感を理解し、個々の障壁を取り除くための配慮とはいかにあるべきか、学校全体で考え取り組みを今後も進めていきたい。</p>	

2 改善方針

<p>■日頃から教職員は子どもたちの様子をきめ細やかに観察し、支援、指導にあたってもらっている。ただ、学年間の意見交流や困り感の共有がもっとできると、チームとしての支援・指導がより充実する。今後も多様化する課題にチームとして取り組み、どのような指導も単発で終わることなく子どもたちの成長につながるように教育活動を仕組んでいきたい。また、常に新しい視点を準備し、ことあるごとに「ふりかえり活動」を大切にしていきたい。働き方改革が進んでいく中、学校行事の見直しも、子ども目線でしっかり考えていきたい。</p> <p>■主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、切実なる課題であった「考える道徳」の授業づくりに取り組む中で、「学び合い」「考え合う」授業とはどんなものか研修が進んでいると感じる。各教科においても具体的な目標、授業での工夫を考え、全体で情報共有を行うことが重要になってくる。教職員集団が同じ方向を向いて、学び合う機会を増やし、その成果を子どもたちに還元したい。</p> <p>■多忙化に対する取り組みは、職員の意識の向上がなくては成り立たない。すべての教育活動に関連してくる取り組みであるとの認識のもと、自分の働き方を見直す機会を今後もつくっていく。</p> <p>■早期共有、複数対応を大切にして、あたたかい評価メッセージを発信していきたい。今後も生徒から生徒への指導や、自治活動について研修や実践を深めていく必要がある。</p>
